



国立大学法人
豊橋技術科学大学

同窓会報



<https://www.facebook.com/toyohashi.tech>



2015
No. **32**



同窓会と大学がクルマの両輪でWin-Winに!

旧第3系(電気電子工学)1期 古野 志健 男
〈(株)日本自動車部品総合研究所 専務取締役〉

豊橋技科大同窓生の皆様方、それぞれの分野の第一線でご活躍されていることと存じます。

私は、2013年11月1日付で豊橋技術科学大学の第7代同窓会会長に就任致しました旧第3系1期生の古野と申します。

約半世紀前の小学生の頃描いた21世紀のイメージは、優しく強い人型ロボットの鉄腕アトムが活躍し、空飛ぶクルマのスーパージェッタが宙を疾走するような夢の未来社会でした。その未来の21世紀になって早15年が過ぎ色々な分野で技術科学も大きく進歩はしましたが、一方我々の地球上では環境問題を始め多くの課題が山積みされていて、とても夢の未来にはなっておりません。同じ人間同士の紛争、地球温暖化に起因しているであろう異常気象、オゾンによる自然破壊、エネルギー危機、世界人口90億人に達する食糧危機、水資源の危機、不治の疫病など、まだまだ技術科学によって解決できることは多いはずですが。豊橋技術科学大学と我々卒業生は、様々な分野で常に新しい技術科学を追求し、日本や世界のために活躍したいものです。

さて、我々同窓生の輪や連携をさらに広げ、それぞれの同窓生が飛躍できれば社会への貢献となるのではないかと、の想いで、会長就任から約1年半が経過しましたが、下記のように幾つかの取組みを役員の皆様方と大学にも協力戴きまして実施して参りました。

- ・ Web 上での名簿管理システムの構築
- ・ 同窓会会計の系を越えた一元管理化
- ・ 大学との連携強化(大学理事会との懇親会、オープンキャンパス、女性卒業生との交流)
- ・ 同窓会海外支部の設立

・ 同窓会運営見直し

(4年毎の総会の毎年開催、監査役/顧問の設置、定期役員会の頻度UP、交流活動助成金UP)

以上の取組みにつきましては、お手数ですが本誌32号や31号をご覧戴くと詳細がご覧戴けます。

いずれに致しましても、これらの取組みを如何に実効あるものにしていくかは、我々役員と会員皆様のご理解/ご参加/ご協力が不可欠かと存じます。例えば、個人情報保護法に則った上で、Web名簿管理システムをうまく活用し、ある目的のグループを発足させ、同窓会の助成金を使って活動して戴くことも容易にできるようになりました。同じ会社の中でも部署が異なると豊橋技科大同窓生と知らずに仕事をされている場合もありますし、会社は違っても同じ地域で活躍されている同窓生もおられるかと思えます。同窓生が活躍されているアカデミアや企業間での仕事上のコラボも可能です。是非、この機会に豊橋技科大の年次や系を越えた同窓生の人脈の輪を広げて戴きたいと深く願います。それが、少数精鋭の技科大同窓生皆様の更なるパワーアップとなり、日本や世界の技術科学向上のために繋がっていくものと固く信じて居ります。

さて、豊橋技術科学大学の昨今の活動状況の概要を少し紹介したいと思います。

1976年の開学から38年が経ち、今までの教職員や学生の皆様方のご活躍で豊橋技科大も大きく変革され、プレゼンスも格段に向上してきました。特に、2013年は文科省の「研究大学強化促進事業19大学」や「博士課程教育リーディングプログラム15大学」に、また、2014年

は「スーパーグローバル大学創生支援事業」にそれぞれ豊橋技科大が採択され、いずれもグローバルで大変アクティブな活動がスタートされています。さらに、豊橋技科大、長岡技科大、国立高専機構の三機関連携により、2013年にマレーシアのペナンに国立大としては初めて海外教育拠点を開設されました。我々同窓会と致しましても、このペナン校を活動の拠点とさせて戴き海外支部を設立させてもらいました。

私は、2014年末に豊橋技科大の研究状況を拝見して新技術に繋がる最先端の研究テーマが多く非常にワクワクさせて戴きました。是非皆様も機会を作って訪問されてはいかがでしょうか。

また、2011年には35周年記念事業が盛大に行われ、来年2016年には40周年記念事業も計画されています。もちろん、同窓会と致しましても、何らかの形で同事業に参画させて戴こうと思いますので、同窓生の皆様方にも是非ご協力戴ければ有難く存じます。

この同窓会活動を通じて、皆様方同窓生も大学側もWin-Winになれるように、クルマの両輪として運営/活動していければと思います。皆様方のご理解・ご協力・ご鞭撻を深くお願いして、挨拶に代えさせて戴きます。

大学新執行部のご紹介

豊橋技術科学大学 学長（豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問） 大西 隆

昨年の4月に新たに学長に就任した大西隆です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。豊橋技科大での勤務も、学長職も初めての経験ですが、学長室と会議室とで過ごす時間が想像以上に多く、学内のあちこちを訪ねる時間をつくらなければと考えているところです。

私は、もう一つ日本学術会議会長という仕事を抱えています。任期は昨年9月末まででしたが、10月1日の総会で再任されたので、もう3年間務めることになりました。こちらの本拠地は東京の乃木坂にあり、非常勤職とはいえながら、2,100人のメンバー、60人のスタッフを持つ国の機関として結構仕事があります。豊橋の学長室からスカイプで会議に参加するなどして遣り繰りすることがしばしば続きます。

前職は、東京大学の教員で、助教授7年、教授18年と、25年間勤務しました。メインは工学研究科の都市工学専攻でしたが、途中、先端科学技術研究センターという学内組織でも働いたことがあります。専門は都市計画・国土計画で、豊橋技科大では5系の関連分野になります。

さて、実は、私は技術科学大学には縁があります。大学院を終えて最初に就職したのが、長岡技術科学大学だったからです。7年在籍しました。また、在籍中に、タイにあるアジア工科大学に2年ほど派遣されたり、欧米に在外研究員として派遣される機会を得たりと、振り



返ると、とても恵まれた時期を過ごしました。もちろん、研究室の学生とも様々なテーマの研究を行い、高専生や技科大生と充実した時を過ごした思い出が強かったので、今回の着任はとても楽しみでした。

とはいえ、大学に来てみると、国立大学の置かれた現状、いや日本の大学の置かれた現状はなかなか厳しいものであることが分かりました。少なくとも、18歳人口が激減するという試練に必ず見舞われます。現在は全国で120万ですが、45年先には半分になるという勢いで減少します。その間には、国立大学の定員減や学校数減も避けられないでしょう。そうした中で、本学の掲げる“技術科学”の教育と研究というテーマをどう発展させていくのが本学の使命であると考えています。日本は、伝統的にモノづくりの技術に長けた国です。その技術にはそれを支える原理があり、法則があるはずで、それを究め、応用し、

普遍化するのが技術科学です。こうした探求によって、EIIIRISという世界的にも知られた研究所を作ることができ、あらゆる応用分野を通して、より生活に密着した形で技術科学を普及させることも可能となります。技術科学の重要性は、日本のみならず、世界の各国にも理解してもらえるはずで、この点を深めていく限り、本学の役割はさらに重要なものとなっていくと確信しています。

もちろん、この確信は、本学の卒業生である皆さんの活躍というエビデンスによって裏付けられるわけです。大学からも種々の発信をするので、卒業生相互、卒業生と大学の交流をさらに強めて、技術科学の普及に努めましょう。

理事・副学長（総務担当） 大貝 彰

同窓生の皆様、昨年4月より総務担当の理事・副学長を務めています大貝彰です。建築・都市システム学系教授から突然環境が変わり、戸惑った感がありますが、何とか職務を熟しております。さて、国立大学に対する社会の目には大変厳しいものがあり、大学改革の波が押し寄せています。そのような中、本学は昨年スーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、現学長が目指す多文化共生・グローバルキャンパスの形成に取り組み始めたところです。また長岡技科大並びに国立高専機構と連携した国立大学改革強化促進事業、研究大学強化促進事業、博士課程リーディングプログラムにも採択されており、我が国の工科系大学の中で大いに本学の存在感を高めているところです。一方で、本学は開学以来40年近くが経ちましたが、本学が学問の対象とする「技術科学」という言葉は社会一般にまだまだ定着していません。本学の存在や実力も十分に理解されていないのが実情です。歴史が浅いと言ってしまえばそれまでです。この現状を打開することこそが優れた学生を集めるための最重要課題と考えています。

このためには大学構成員が一丸となって不断の努力を進めることはもちろんですが、同窓生の皆様の社会におけるご活躍が何よりも本学の存在感を高める「漢方薬」だと、日頃から思っています。漢方薬の効き目はゆっくりですが確実です。人口減少社会に突入し18歳人口が減少していく中で優秀な学生の獲得競争は益々厳しくなりま



す。そんな時代にあっても、我が国の産業競争力を高め、イノベーション創出や地域活性化に大学が貢献するため、自然科学、人文科学とともに「技術科学」が果たす役割の重要性はより高まっていくと確信しています。最後になりましたが、本学で「技術科学」を学んだ皆様の益々のご活躍を祈念しつつ、ご挨拶とさせていただきます。

理事・副学長(学務担当) 井上 光輝

本年4月から、理事・副学長(学務担当)に就任しました井上光輝です。私は、本学1期生(情報工学課程、電気・電子工学専攻)で、大学院修了後は高専と本学、東北大学などで教育研究を担当してきました。

理事・副学長としての担当は、教務、入試、国際、高専連携、学生支援など多岐に渡ります。本学は今年度、スーパーグローバル大学創生支援事業に採択され、10年の期間をかけて大学全体のグローバル化を進めています。国際担当として、グローバル技術科学アーキテクト養成コースの設置の他、10年後には全体の95%の授業のバイリンガル化や、教職員のグローバル化を推進しています。また、すでに開校したマレーシア・ペナン教育施設の活用を通じて、6ヶ月の長期海外実務訓練や、教職員のグローバル化に資する取り組みを進めています。教育では、博士課程リーディングプログラムとして、博士前

後期一環のブレイン情報アーキテクトの養成を推進しています。本学は、研究大学としてイノベーションを起こす融合研究を進めていますが、融合研究と大学院教育との強い連携で、技術科学に立脚し

た優れた人材の養成を進めています。長岡技術科学大学、高等専門学校機構との連携により推進している大学改革強化推進事業では、長岡技術科学大学との共同教育コースの設置や、高専教育との連携強化を図っています。

これらの取り組みを通じて、本学のさらなる発展を期するつもりです。同窓生の皆様にも引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。



「系長より」

機械工学系 系長 福本 昌宏

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご存知の様に本学は、平成16年4月の国立大学法人化の大きな節目に引き続き、平成22年4月に学部、大学院組織を、それまでの8つから5つに更新する抜本的な学内再編を行いました。その結果、機械系分野は、多くの同窓生の皆様に馴染みの深い、いわゆる旧1系と旧2系とを合体させることで新たに命名した「機械工学系」として現在は運用しています。新系は、教員数、学生数ともに旧系をシンプルに足し算した規模になったものとお考え下さい。再編後の初代系長を寺嶋一彦先生が、第2代を北村健三先生が務められ、平成26、27の2年度にわたる第3代系長を私が拝命致しました。

もとより機械工学は力学をベースとする学問分野であり、質量あるものを如何にハンドリングするかを本質的な領分とします。再編に当たり当系では、機械・材料・熱・流体の4力学（認識工学）を学術基盤としつつ、そこでの知見を材料・加工・システムの応用技術（設計工学）へと展開することで、価値創造としてのものづくりを行うことが機械工学固有の役割と位置付けました。そして、その達成に向けて「機械・システムデザイン」「材料・生産加工」「システム制御・ロボット」「環境・エネルギー」の4つの研究分野／教育コースを設置しました。

現行、上記した各分野／コースには、記載の順に、機能材料・構造システム、機械ダイナミクス、マイクロ・ナノ機械システム、極限成形システム／薄膜材料、材料機能制御、高強度マテリアル開発・評価、界面・表面創製／システム工学、計測システム、システム制御、ロボティクス・メカトロニクス／自然エネルギー変換科学、省エネルギー工学、環境熱流体工学、環境エネルギー変換工学、の計16の研究室が存在し、機械工学分野をもれなくカバーする形で、それぞれの研究活動を展開しています。卒業・修了後すでに永い年月を経た同窓生の

皆さんには、ご出身の研究室名とは違う場合が多いかと思いますが、機会を見つけ大学／系のホームページに入り、現行の各研究室スタッフや研究テーマ等から、ご出身の研究室の活動状況や近況を是非ご覧ください。



いずれの研究室においても活発な教育研究活動が繰り広げられています。

なお、当系に関連の深い昨今の学内外における特記事項として、研究活動としての、①系内複数の教員が研究活動を連携する人間・ロボット共生リサーチセンターの設置（平成22年～）、②省エネルギー技術開発に向けたデンソー寄付講座の設置（平成25～27年）、③先端ものづくり事業展開を目指す「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト（平成22～27年）等が、また教育活動としての、④大学院博士前期・後期課程におけるMOT（Management of Technology）コースの設置（平成18年～）、などをご紹介させていただきます。

機械工学は、エネルギー、先端材料などの基幹技術とともに、ロボットなどの未来技術をカバーする分野であり、特にものづくりの主役として今後、持続可能な人類社会の構築に対し、ますますその存在が重要になるものであります。当系においては今まで以上に社会に貢献できる人材群の育成、輩出を目指し、教職員が一丸となって教育研究活動に精進して参る所存であります。同窓生の皆様には、なお一層のご支援、ご指導を賜れば幸いです。

学内近況報告

中村 祐二, 横山 誠二

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

2010年度に発足した「機械工学系」も4年が経ち、旧1系と旧2系の融合が実質的に進んでいます。未だに通称として「旧機械」「旧生産」あるいは「旧1系」「旧2系」という呼び名が一部では残っておりますし、今の機械工学系を「新1系」と呼ぶこともあります。これも（現）1系の卒業生が増えるまでの移行措置のようなものだと考えていますが、案外未来永劫この名称が使われるのかもしれない。また改組があったらどんな名称になるのか...今は考えずにおきます。

その新1系の研究室の拠点であるD棟は、昨年度後半から大掛かりな改修を経て、本年度からは建物の中身が（一部ですが）一新されました。ウォッシュレット付きのトイレも常備され、近代的な学問の場に変身です。安心していただきたいのは、多くの皆さんが過ごした実験室は見栄えが殆ど変わらない雰囲気を保っていることです。昔の伝統と近代的な設備が融合したD棟を是非ご覧になってはいかがでしょうか。皆様のお越しを教員一同心待ちにしています。

系に限らず全学に関わるものですが、本年10月に採択されたスーパーグローバル大学事業も加わり、本学は急速な国際化を進めるよう舵切りをしています。近い将来、英語と日本語でのバイリンガルな講義を提供するなどの提案があり、実践に向けた試行を開始することになりました。皆様が遊びに来られたときにはキャンパスの国際化を感じられるような変化があるかもしれません。どうぞご期待ください。

教員の近況をお伝えしますと、昨年度末に戸田先生の後任として三浦博己先生がご着任されました。4月には機械・システムデザインコースの助教として松原真己先生、環境・エネルギーコースの准教授として中村が着任しました。高専との人材交流の一環として豊田高専から若澤靖記先生がご着任されております。中川先生は特任教授として昇任され、梅本先生は4月から本学国際教育センター勤務となり、パトレス准教授は母国メキシコに戻られました。清水先生と徐先生は4月で退職されました。

笹野先生は教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期FD）メンバとして半年間ニューヨーク市立大学クイーンズ校へ出張されておりましたが、12月末からご帰国なさっております。

末筆ながら、皆様におかれましては今後ともお元気で活躍されることをお祈り申し上げて、近況報告とさせていただきます。

[機械・システムデザインコース]

教授：足立忠晴, 河村庄造, 柴田隆行, 森 謙一郎
准教授：安部洋平, 川島貴弘, 竹市嘉紀
助教：永井萌土, 前野智美, 松原真己（新任）

[材料・生産加工コース]

教授：伊崎昌伸, 福本昌宏, 三浦博己
准教授：戸高義一, 安井利明, 小林正和, 横山誠二
助教：笹野順司, 山田基宏

[システム制御・ロボットコース]

教授：章 忠, 寺嶋一彦, 鈴木新一（兼務）
准教授：内山直樹, 三宅哲夫, 三好孝典
助教：阪口龍彦, 佐野滋則, 田崎良佑

[環境・エネルギーコース]

教授：飯田明由, 北村健三, 野田進, 柳田秀記
特定教授：中川勝文
准教授：鈴木孝司, 関下信正, 中村祐二（新任）
助教：松岡常吉, 光石暁彦, 横山博史

（平成27年1月現在）



退職教員より

豊橋技術科学大学のグローバル化

機械工学系・国際教育センター 名誉教授 梅本 実

豊橋技術科学大学第1工学系同窓生の皆さん、元気でお活躍のことと拝察します。顧みますと、1987（昭和62）年4月に京都大学より赴任し、2014（平成26）年3月末で定年退職するまで27年間にわたり本学にお世話になりました。恵まれた環境で教育と研究に楽しく従事させていただきましたのも、研究室で勉学し、特別研究、修士研究、博士研究に精進された同窓会の皆様のお陰と感謝する次第です。

私は定年の半年前から、新しくできた国際交流センターの専任教授として1系から移り、本学の海外教育拠点であるマレーシア・ペナン校の立ち上げ、ペナン周辺企業への実務訓練生派遣に関する活動に参加いたしました。この活動は平成24年度に本学と長岡技科大、国立高専機構の3機関が申請し採択された「国立大学改革強化推進事業」のプロジェクトの一環です。このプロジェクトの中で本学はグローバル人材育成を担当しています。私は定年退職後もこのプロジェクトの特任教授として採用していただき、毎日大学に勤め、月に1週間程度の割合で、マレーシアのペナンに出張しております。

さて、この機会を借りて、同窓会の皆さんにグローバル化に向けた本学の最近の動きを紹介したいと思います。ご存知のようにアメリカを中心に世界的規模で優秀な学生・研究者の獲得競争が進んでいる中で、国立大学法人である本学でも国際競争力強化が求められています。そのために、優秀な留学生や外国人教員の獲得、英語による授業や日本人学生の海外留学によるグローバル化の推進などが期待されています。さらに、日本の製造業の多くが、工場を海外に移し、多くの製品が海外で生産されています。その結果、国内での製造業の雇用が減り、理工系卒業生の就職難が問題となりつつあります。また日系企業の海外展開においては海外駐在を避けたがる社員が多く、駐在員の確保が問題となっています。一方、外国企業は日本で英語の堪能な人材が不足していることがネックとなって日本への進出を躊躇しています。このよ

うな状況を打開する対策の一つとして、本学では海外の企業でのインターンシップに力を入れています。海外で仕事を体験することにより異なる文化や考え方を理解し、仕事に必要な生きた英会話を身につけることを狙いとして、2014年度から海外実務訓練をペナンで始めました。2014年度は21名の学生がペナンにある日系企業、多国籍企業、マレーシア企業で実務訓練を行いました。2015年度は12名の学生が、現在ペナンで実務訓練を行っています。さらに本学は2014年度にスーパーグローバル大学の一つに選ばれ、今後10年間でバイリンガル授業の実施、留学生の割合を増やす取り組み、外国人教員を採用する取り組みなどが計画されており、本学のグローバル化が大いに進もうとしています。将来、本学卒業生の何割かの人が、海外の企業に就職し、国際的に活躍することを期待しています。

若い頃アメリカに5年間留学をしたことや、本学で研究を始めてから多くの留学生に研究室に来ていただいた経験などを顧みますと、長年に渡って、知らず知らずのうちに国際交流に関わってきました。国際交流の活動は「世界平和の基本は多くの人が交わること」という私自身の信念にも合致し、グローバル人材育成の仕事に現在も関わられることに感謝しています。まだしばらくの間、特任教授として微力ながらお手伝いさせていただきますので、同窓生の皆様には、本学のグローバル化へのご協力を是非ともよろしくお願いいたします。



本学とマレーシア学生達といっしょにペナン校のプールの前で（右端）

幕引きに風樹のつぶやき(ツイット)三言、いや一言を

機械工学系 教授 清水 良明

「最適化学」は、決め方に関する私の提唱している新しい学問分野です。この決め方について最近違和感を持つことが多くなってきています。その原因の一つは、複雑で難解な論理や手順のほうが単純明快なものより格段に優れているかのような視点が広がっていることです。概して理路整然なものは単純です。”Simple is best”を優先すべきです。

二つ目は、結果の過大重視です。我々の世代は小さい頃から「ものごとを良くわきまえろ」と教えられました。「もの」は結果（製品、対象）で、「こと」は結果に至る過程（手順、方法論）です。製造業で「ことづくり」の重要性が増すと予想される中で、学術においてはとりわけ、「結果よければ全てよし」とする安易さを払拭する必要があります。この辺りは、宇宙物理学者の池内了が岩波新書「疑似科学入門」のなかで「結果の現象のみをまくしたてることである。原理と結果が結びついていないのだ。にも拘らず、その言説が「科学的」とであると信じ込まされることになる。」と述べ、道理（ものごと）のわかり易い説明の重要性を説いています。

最後に小生の拙著「最適化学のすすめ」（コロナ社、2010）のコラムの一つから引用します。『「吾唯足知」の4つ漢字に共通している部品はもちろん「口」である。この部分を生かした蹲（つくばい）（石の手洗い鉢で、水が入る口の部分を真中に上、右、下、左に残りの部分

を配置すればそれぞれの漢字が完成する）が京都の龍安寺にある。エネルギーや食料不足が懸念されている中で欲望が増大している世界にとって、「足ることを知る（老子）」ことは、「持続ある成長」を続けていくための重要なキーワードの一つであると著者は思っている。このことは、有限の有形物に対する戒めとして、「知的な飢え」についてはまったくこの正反対であってほしい。興味という土壌が豊かでなければ、知力という果実の収穫は望めない。「吾未足不知」を、教育を与えるもの、受けるもの両者にとっての心構えのテーゼとしたい。』

うーん、長々と述べすぎたようです。「簡単明瞭な道理を誠心誠意から追求することを決め方の法とせよ」の一言で済むことでした。17年間本学に糊口の糧を得たことへの感謝と皆様の新たな飛躍の成就を祈念して口（ツイット）をつぐみます。



着任のご挨拶

機械工学系 教授 三浦 博己

金属・合金の組織を制御して、強度などの特性を改善する研究を行っています。具体的な一例として、巨大ひずみ加工法の一つである多軸鍛造法を純チタンに適用し、結晶粒サイズを100ナノメートル（1センチメートルの10万分の1）程度に超微細化することに成功しています。この超微細粒組織を有する多軸鍛造純チタンは、1mm²

辺り強度100kg以上の高強度に加え、低い弾性率（しなやかさ）を有します。一般的な純チタンは引張強度が400kg程度でしなやかさは低いので、多軸鍛造純チタンは極めて優れた性質を有することが分かります。このような金属材料、組織制御による特性の向上を特に非鉄金属を中心に行っております。開発した高強度の多軸鍛

造純チタンは、生体適合性や機械加工性等のチタンの持っていた問題を一挙に解決できる「人体に優しい生体用高強度純チタン」として大きな期待を集めています。怪しくびれたビール缶を見て「どんな材質でどのような条件で加工したのか」をじっくり真剣に考えてしまいます。ちなみに下戸です。

豊橋技科大発の新材料を世に送り出し、お役に立ちたいと願って研究を日々行っております。また、豊橋技大の諸先輩を見習い、「早く一人前になりたい」と願う日々です。どうぞよろしくご指導の程お願い致します。



機械工学系 准教授 中村 祐二

2014年4月に環境・エネルギーコースの准教授として着任した中村祐二と申します。前任地である北海道で9年過ごし、この度、縁あって本学で御世話になりました。専門は燃焼学、火災物理科学、模型実験理論、宇宙工学です。燃焼の利点（エネルギー変換）を活かし、欠点（火災などの災害）を抑えるための研究に主体的に取り組み、その解明に模型実験理論を活用しています。具体的には宇宙や原子力施設等の特殊環境での火災、燃焼をとりまく将来のエネルギー利用ビジョンに関わる研究を展開しています。模型実験理論を大学での教育プログラムに発展させることも一つの大きな目標としています。

どの組織にも特色や利点・欠点があります。私はこれまで約20年のキャリアのうち6組織（海外で3箇所、国内で3箇所）にて研究・教育に従事する機会に恵まれましたが、中でも本学の特徴は際立っています。高専からの編入生が主たる割合を占めるためか、学生のスペク

トルは広く多様性豊富なのに、ほぼ全員が高い技術力を有しています。その半面、遠慮がちで主張するのが得意ではないようです。教育には「環境整備」が大事な要因ですので、“欠点を抑えて利点を活かす”という



研究方針を学生教育にも反映させるべく、実験室の中に広いミーティングスペースを設けました。仲間同士で遠慮なく自由に議論でき、「できない」と諦める前に「こうしたらどうだろう?」という発想を臆せず主張できる環境作りを試みています。自由参加ですので興味ある同窓生・現職員の方々の参加は大歓迎です。

今後ともよろしくお願い致します。

2014年4月に機械工学系の助教として着任しました、松原真己と申します。自動車部品メーカーの生産技術部にて生産設備の開発、海外工場の立ち上げ等の業務に従事しながら、同志社大学大学院工学研究科博士課程後期に進学し、自動車用タイヤの振動に関する研究に取り組んできました。本学では機械ダイナミクス研究室、河村庄造教授のもと、“振動工学”に着目した教育研究に携わっております。

機械図面を目にする機会のある家庭で育った影響から、モノづくりに興味を持ち、大学では機械工学を専攻致しました。特に振動工学に興味を持つようになったのは、図面に基に解析する、有限要素法を知ったことがきっかけです。その後、会社の業務を通じて、図面の無い初期の段階から、低振動騒音を考慮に入れた設計をすることは難しいということを実感致しました。このような問題を解決できる設計法を開発したいという想いから、本学に

着任し、日々研究に勤しんでおります。

これからは、授業や卒業研究を通じ、技術力・知識だけではなく、マナーや考え方・行動指針なども含め、社会に出て即戦力となる優秀な人材

を輩出したいと考えております。未熟者でまだまだ不慣れなことも多いですが、自らも学生と共に成長し、研究、教育に邁進する所存です。同窓会の皆様には今後とも多くのご支援、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



研究室だより

マイクロ・ナノ機械システム研究室の近況報告

博士前期課程2年 佐藤 圭輔

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれご健勝のことと存じます。2014年度の本研究室は、教員3名（柴田隆行教授、川島貴弘准教授、永井萌土助教）、横田万紀子秘書、学生22名（博士前期課程12名、学部生10名）で構成されています。「MEMS技術を究めナノとバイオへの架け橋を築く」をコンセプトに、次世代のものづくり基盤技術、MEMSデバイス・システムの創製に取り組んでいます。

研究室では大きく4つの研究テーマを実施しています。(1) マイクロ・ナノ加工として、触媒材料の白金や酸化チタンを利用した化学的な微細加工に取り組んでいます。(2) 細胞機能解析システムでは、表面増強ラマン分光を取り入れた多機能走査型バイオプローブ顕微鏡の構築を進めています。また単一細胞を一括で処理するニードル

アレイや捕獲デバイスを開発しています。(3) 微生物融合型MEMSとして、Ca²⁺ 応答性のツリガネムシや走光性を持つボルボックスを用いたマイクロシステムを開発しています。(4) MEMSセンサとして、アコースティック・エミッション(AE)を検出するカンチレバー型のセンサの開発に日夜取り組んでいます。

研究の設備面では、3つの大きな動きがありました。微細加工の装置をベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)からエレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)に移設しました。バイオ関連の実験の拠点を低層実験棟から総合研究実験棟に変更しました。新しく液中観察が可能な原子間力顕微鏡(AFM)を導入しました。これらの新しい作業環境・装置により、研究の効率が上がっています。研究室の行事としては、春には新入生歓迎会、ボー

リング大会、夏にはビアガーデンでの懇親会を実施しています。研究室旅行では、日間賀島や下呂温泉に行っています。上下の垣根を越えて学生同士で交流し、先生方とも親睦を深めています。

卒業生並びに修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は研究室にお気軽にお立ち寄りください。夏のオープンキャンパスに合わせて、OB会を開催しております。参加して頂けるのを研究室一同、心よりお待ちしております。最後になりましたが、

諸先輩方の今後の益々のお活躍、発展を心よりお祈り申し上げます。



界面・表面創製研究室の近況報告

博士後期課程2年 渡辺 悠太

卒業生・修了生の皆様におかれましてははいよいよご清祥のことと拝察いたしております。現在、界面・表面創製研究室のメンバーは福本昌宏教授、安井利明准教授、山田基宏助教の3名の教員に加え、加藤恭子秘書、民間等共同研究員1名、博士研究員2名、博士課程学生8名、修士課程学生22名、学部生11名の総勢48名です。その中には韓国、インド、中国、マレーシアの国籍を持つメンバーがおり、国際色豊かになっております。

研究室では、溶射技術に関する基礎現象の解明および機能性皮膜の創製技術に関する研究に加え、コールドスプレー法やエアロゾルデポジション法という、固体粒子を積層させる新しい成膜技術に関する研究についても、近年力を入れて取り組んでおります。今年度は福本教授が会長を務める日本溶射学会の講演大会の100回目という節目を豊橋で迎えることとなり、本研究室からも多くの学生が参加し発表を行いました。また、異種材料の摩擦攪拌接合(FSW)、ブラスト研磨法、プラズマ電解酸化(PEO)法など、材料の界面・表面創製技術に関する

研究を幅広く実施しております。特に摩擦攪拌接合に関するテーマは、安井准教授が永井科学技術財団「永井学術賞」を受賞するなど、活発に研究を行っております。また、研究以外についても、夏の研究室旅行などの恒例行事はもちろん、系で行っているスポーツ大会にも積極的に参加しています。

本年度は福本教授が還暦を迎え、12月には還暦をお祝いする会が開催されました。国内はもとより遠くは韓国からも多くの卒業生・修了生の皆様にお越しいただきお祝いをしていただきました。暮れの押し迫った時期の開催にも拘わらず、ご参加いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

最後になりましたが、卒業・修了生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室をご支援下さるようお願い申し上げます。なお、研究室の近況につきましては研究室ホームページ (<http://isf.me.tut.ac.jp/>) に随時掲載していきますのでこちらをご覧ください。



生産システム研究室の近況報告

博士前期課程2年 猶木 陽太

卒業生・修了生の皆様、いかにお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、各方面でご活躍のことと存じます。

2014年度の生産システム研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在、生産システム研究室は、教員1名（阪口龍彦助教）、学生10名（博士前期課程7名、学部3名）で構成されています。

本年度は本研究室にとって大きな変化のある年でした。長年、最適化工学の教鞭を説いてくださっていた清水良明教授が定年を迎えられ、Rafael Batres 准教授もご退職により、お二方同時に研究室を去られることとなりました。清水教授はご退職後も、豊橋技術科学大学名誉教授および客員教授として、引き続き本研究室学生の研究指導にご尽力いただいております。Rafael Batres 准教授におかれましては、母国のメキシコに戻られ、Tecnologico de Moterrey (Cuernavaca キャンパス)にて教鞭を執られております。長年ご尽力くださったお二方が去られ、メンバーも11名と少なくなり寂しい限りではありますが、これまでに負けぬよう活気ある研究室作りにメンバー一同精進しております。

研究室の現在の研究内容は、物流における配送・引取を考慮したロジスティクスネットワークの設計、板金加工における加工レイアウト・スケジュールの同時最適化、複雑な生産システムに対する生産スケジューリングを中心とした意思決定支援技術、サプライチェーンマネジメントに

おける在庫管理支援技術、介護現場のための日程計画作成支援など、多種多様なものづくり支援技術の体系化・システム開発に取り組んでおります。実際に工場見学をするなど、シミュレーションと実際の生産現場との差異も認識しながら、日々研究に励んでおります。詳しくは研究室のHP (<http://ise.me.tut.ac.jp/>) をご覧いただければ幸いです。

在籍数の少なくなった研究室ですが、その分研究室メンバー間の距離は近くなり、これまで以上に研究内容のディスカッションや日常会話などが多くなりました。新入生歓迎会や卒論お疲れ様会、追い出し会なども通じ、阪口助教の居室が近いことも相まって研究室全体としても和やかな雰囲気となっています。

ご多忙のことと存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたらお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心からお待ちしております。先輩方の学生時代のお話・就職されてからの体験談など貴重なお話をいただければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方の更なるご活躍を心からお祈りするとともに、今後も当研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。

写真は2014年3月に行われた清水教授の最終講義後の写真です。これまでの人生を総括するかのような感慨深い貴重なお話を聞くことができました。



「系長より」

教授 若原 昭浩

卒業生・修了生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。既に報告させていただいております通り、学科再編に伴い、電気・電子工学系（旧 第3工学系）は、電気・電子情報工学系（第2工学系）として生まれ変わり、現在の系内組織は、以下の4分野で構成されています。

- ・材料エレクトロニクス分野
- ・機能電気システム分野
- ・集積電子システム分野
- ・情報通信システム分野

再編後6年目となる平成27年度には、在籍全員が、入学・編入当初から電気・電子情報工学系の所属となります。修士の学位審査も90名を超える規模で活発な討議が行われています。電気・電子情報工学系の学生は、これまでと同様に大変活動的で、平成25年12月に国立大学として初めて設置された海外キャンパス（マレーシ

ア・ペナン島：写真）を用いた実務訓練やサマースクールなどの教育プログラムへ積極的に参加しています。

さて、本年度も多数の方々の異動がございました。まず、材料エレクトロニクス分野教授の服部和夫先生が、平成26年3月末日をもって定年を迎えられご退職されました。また、高専-技科大人事交流制度により昨年4月に情報通信システム分野助教に着任された松岡俊佑先生が、旭川高専電子制御情報工学科助教に3月末をもって帰任されました。更に、学長の交代に伴い、材料エレクトロニクス分野教授の井上光輝先生が、理事・副学長に就任するため系を離れることとなりました。

一方で、材料エレクトロニクス分野の高木宏之先生、集積電子システム分野の関口博人先生が、講師に昇任され、同じく集積電子システム分野の高橋一浩先生が系所属のテニユアトラック講師に採用され、国際交流センター准教授のLim Pang Boey先生が、材料エレクトロニクス分野兼務教員として参画され、教育研究活動に邁進されています。民間企業から田村昌也先生が情報通信システム分野准教授として、他大学からは東城友都先生が機能電機システム分野助教として、岩田達也先生と山根啓輔先生が集積電子システム分野助教にそれぞれ着任されました。

旧3系のOBとしては、馬場清一さんが科学技術コーディネーターとして大学における知財管理の職に就いております。



ペナン校のメインエントランスに向かう実務訓練生



ペナン校でフットサルを楽しむ海外実務訓練生

教職員紹介（平成 26 年 12 月現在）

<材料エレクトロニクス分野>

教授：福田光雄，松田厚範
准教授：服部敏明，中村雄一，武藤浩行，
石山 武，Lim Pang Boey^{*1}
講師：高木宏幸
助教：河村 剛，石井祐也，後藤太一，加藤 亮^{*2}

<機能電気システム分野>

教授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史
准教授：須田善行，村上義信，稲田亮史
助教：東城友都
助手：川島朋裕
技術専門職員：日比美彦

<集積電子システム分野>

教授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明，石井 仁^{*3}
准教授：村上裕二，河野剛士，岡田 浩^{*4}
講師：関口寛人，高橋一浩
助教：秋田一平，山根啓輔，岩田達哉，赤井大輔^{*3}
技術専門職員：飛沢健

<情報通信システム分野>

教授：大平 孝，市川周一，上原秀幸
准教授：田村昌也
助教：宮路祐一，藤枝直輝，坂井尚貴

*1 国際教育センター，*2 研究基盤センター，*3 テーラー
メードバトンゾーン特任，*4 エレクトロニクス先端融合研究所

フォトニクス研究室の近況

博士後期課程3年 相原 卓磨

卒業生，修了生の皆様方におかれましては，益々ご健勝のことと存じます。フォトニクス研究室に関連する近況を報告いたします。

本研究室は発足から 11 年目を迎え，現在は福田光男教授，石山武准教授，石井佑弥助教，新井紳一非常勤講師，遠藤政男非常勤講師，森田知恵子事務補助員，および学生（博士後期課程 2 名，博士前期課程 13 名，学部 7 名）で構成され，日々研究に励んでおります。

本研究室は，光技術を中核に，表面プラズモンを利用した光電子融合回路の開発，生体・環境計測を対象とした光センシング技術の開発，食品中の異物検出技術の開発，高分子ナノファイバーを用いた新規有機デバイスの開発，半導体ナノ構造を利用した発光材料の開発などに向けた研究を行っております。特に，異物検出に関する研究は，「知の拠点あいち」重点研究プロジェクト P2「食の安心・安全技術開発プロジェクト」の中で研究が進められており，最近では研究成果が新聞などで取り上げられました。これも諸先輩方のこれまでの功績の賜物であることと感謝しております。

研究室の行事として，新入生歓迎会，材料エレクトロニクス分野の研究室との合同遠足，駅伝への参加，忘年会などを行い，一同の親睦を深めております。また，今年度からは，一泊二日の研究室旅行が新たに行事に加わり

ました。バーベキューや鍋，ボードゲームなどを通して，お酒を交えながら，先輩と後輩，先生と学生という垣根を越えて大いに盛り上がりました。今後もこのような行事が増えることを願うとともに，諸先輩方の積極的なご参加をお待ちしております。

これまでの研究室の活動内容につきましては，ウェブサイト (<http://www.photon.ee.tut.ac.jp/index.html>) にて公開しておりますので，お時間のあるときにご覧頂けますと幸いです。

卒業生，修了生の皆様方におかれましては大変お忙しいことと存じますが，豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお立ち寄りください。研究室一同，心よりお待ちしております。また，その際に，在学中や卒業，修了後の貴重なお話をお聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら，今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。



誘電絶縁現象計測診断システム工学研究室の近況報告

助手 川島 朋裕

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。現在、当研究室は、長尾雅行教授、村上義信准教授、博士前期課程 16 名、学部 6 名の 25 名で日々研究に励んでおります。

電気エネルギーの安定供給および信頼性を確保するためには、「電気絶縁」をキーワードに研究を行う技術者の存在は必要不可欠です。また、近年では、電気機器のコンパクト化・高出力化の流れから、機器の設計電界が材料の電気絶縁破壊強度に極めて近くなっており、従来の高電圧分野のみならず、パワーデバイス等の一見高電圧とは異なる分野においても我々の技術が必要になっています。その中で、研究室に蓄積した膨大な電気絶縁に関する知見を基礎として、多種多様な電気絶縁材料の評価・検討およびその計測・評価技術の確立、さらには高熱伝導率・高絶縁破壊強度を有した新たなコンポジット電気絶縁材料の開発等、将来の電気機器の高性能・高信頼化に資する研究開発を行っております。

研究室の行事としましては、夏は夏ゼミ合宿、冬は 10,000 円ポッキリで楽しむ「ポッキリ会」の計 2 回の宿泊を含めたイベントにて、研究室一同参加で親睦を深めております。最近では、計測・評価技術の研究・開発にあたりご指導いただいている穂積直裕教授の研究室とも合

同でイベントを行い、最大約 40 名の大規模なイベントも行っております。

この場をお借りして、皆様にご連絡いたします。長尾雅行教授におかれましては、平成 27 年度をもって、大学をご退職になります。つきましては、先生のご退職に当たり、永年に亘る先生のご功績を讃え、感謝の意を表すと共に、益々のご活躍とご健康をお祈りしたく、記念パーティーを企画予定しております。詳細につきましては、平成 27 年 4 月より研究室内に特別チームを立ち上げ、準備を進め、日時と会場の手配が完了した段階で順次皆様にご連絡する予定しております。最後に、ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



光・電子融合デバイスグループ近況報告

本学卒業生並びに修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様方におかれましては、大学での経験を糧にますます御活躍のことと存じます。

本研究室では、光・電子融合や新規的デバイス創出のコンセプトの下、III-V 族窒化物半導体や導波路材料等の結晶成長技術に始まり、導波路を含む微細加工プロセス、化合物半導体プロセス、グラフェン等の新規材料開発など、幅広く探求を進めております。今現在の恵まれた研究環境は先達の御功績があつての賜物であり、我々も次世代の研究の糧となるよう意識して研究活動に励ま

なければと思うばかりであります。最近では、豊橋技術科学大学全体で研究大学強化促進事業やスーパーグローバル大学、リーディングプログラム等の大型プログラムが走り始めており、本研究室としても気を引き締めるとともに、学会等で皆様に良い御報告が出来るよう研究室一同頑張っていこうと思っております。

研究室の体制としては、若原先生・岡田先生・関口先生に加え、今年度より OB である山根啓補先生が助教に御着任され指導教員は 4 人体制となりました。また、師事する学生も 30 人を超え、2 人の留学生も加え研究室の

規模は年々増すばかりであります。また、研究室の雰囲気に加え、実験室の様子も様変わりしてきており、OBの方々には是非とも御指導も兼ねて一度御足労頂ければと思っております。

研究室行事としては、新入生歓迎会やデバイス大講座での各種イベント、夏旅行や忘年会、追いコンなどが開催されており、修研室でも日々研究以外の話にも花を咲かせながら楽しく研究活動をさせて頂いております。OBの方々におかれましては、夏旅行等のお誘いが届かれました際には、是非とも御指導・御鞭撻を揮って頂くためにも御参加頂ければと存じます。

重ね重ね、卒業生並びに修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。また研究

室の活動内容は web サイトで公開しておりますので、お時間のある時に目を通していただけると幸いです。最後になりましたが、諸先輩方の今後の益々の御活躍、発展を心よりお祈り申し上げます。



ワイヤレス通信研究室の近況報告

情報通信システムコース 助教 宮路 祐一

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。私たち「ワイヤレス通信研究室」は現在、上原秀幸教授、宮路祐一助教の教員2名、および学生17名（博士前期課程12名、学部5名）で運営しています。

当研究室は、通信理論、無線信号処理などを基礎技術として、無線アクセス方式とマルチホップ通信による新しいコミュニケーションの実現を目指しています。具体的には、センサネットワークやアドホックネットワークなどの自律分散システムにおいて、有限の無線資源を有効に共有するためのアクセス制御や協調して接続するためのネットワーク制御技術の研究を進めています。

最近では、これまでに得られた理論解析やシミュレーションでの知見を活用し、マルチホップ通信テストベッドや、無線LANとセンサネットワークを融合したシステムの開発に取り組んでいます。また、身の回りにある、あらゆるデバイスのケーブルフリーを実現するワイヤレス電力伝送の研究も推進しています。学生達は熱心に研究に取り組んでおり、国際会議での学生優秀論文賞や電子情報通信学会の学生研究奨励賞を受賞するなど、学内外から高く評価されております。研究室メンバー、研究内容

や研究成果などについてはホームページ (<http://www.comm.ics.tut.ac.jp/wc/>) にて公開しておりますので、お時間があればぜひご覧ください。

また、研究室を知ってもらい取り組みとして、オープンキャンパスでの研究室公開、高校生のラボツアーや高専生の体験実習受け入れなども積極的に行っています。下記の写真は、体験実習に参加した高専生とワイヤレス通信研究室のメンバーと一緒に撮影した一枚です。

卒業生・修了生の皆様におかれましては大変お忙しいことは存じますが、豊橋方面へ来られることがありましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、お待ちしております。皆様が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



「学内近況報告」

情報・知能工学系 系長 中内 茂樹

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本学では平成22年4月に学部と大学院が同時に再編を行いました。新系としての博士前期課程（修士課程）はすでに3回の修了生を送り出し、母体となった情報工学系（旧4系）と知識情報工学系（旧7系）の融合もかなり進んでおります。

情報・知能工学系は情報処理に関わる基礎から最先端に至る幅広い技術科学の教育と研究を任務としています。今年4月から研究分野も一新し、計算機数理科学分野（Computer & Mathematical Sciences）、データ情報学分野（Data Informatics）、ヒューマン・ブレイン情報学分野（Human & Brain Informatics）、メディア・ロボット情報学分野（Media Informatics & Robotics）として、人工知能やロボティクス、ブレインなど、より教育研究活動が見えやすい形に再編し、3系のさらなる活性化を目指しています。

一方、教育では「情報工学コース」と「知能情報システムコース」の2コースを導入し、幅広い知識とともに特定の分野についてはより深く学ぶ機会を提供しています。ただし、学生は所属コースに関係なく、各自の興味と意欲に応じて希望する分野の研究室に所属することができます。新系の詳細につきましてはホームページ（<http://www.cstut.ac.jp/>）をご参照頂ければと存じます。

今年度から情報・知能工学系に関係の深い全学プロジェクトである博士課程教育リーディングプログラム「超大规模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」が第1期生を受け入れ、活動を本格化しています。情報科学・技術の重要性がますます高まるなかで、3系の担う役割も大きいものとなっており、本学における教育研究活動に対する貢献が期待されています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。昨年3月末に佐竹純二助教が福岡工業大学情報工学部准教授へ、また5月には藤原洋志助教が信州大学工学部准教授へ、それぞれ転出されました。また、高専・両技科大教員交流制度にて、昨年3月末に岩崎洋平准教授が熊本高専へ戻られ、4月には山本一公准教授が豊田高専から本学へ戻られました。さらに、4月には渡辺一帆講師と、東広志助教、吉田光男助教が着任されました。また、3系はもちろんのこと、本学の教育研究に長年貢献されてこられた中川聖一教授が昨年3月で定年退職されましたが、まだまだ中川先生の知恵をお借りしたい声も大きいことから、現在はリーディングプログラムの特任教授としてご活躍いただいております。

情報・知能工学系では今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うべく一層努力して参りたいと存じます。同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

教職員一覧及び学生現員(平成26年12月現在)

【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学、情報生命学
関野 秀男	教授	計算科学
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学、計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学、ハイパフォーマンスコンピューティング
小林良太郎	講師	計算機工学
相田 慎	助教	計算量理論
齋藤 暁	助教	数値計算、量子情報処理
原田 耕治	助教	免疫システム科学、複雑系

【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索、データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
増山 繁	教授	自然言語処理、Webマイニング、アルゴリズム工学
秋葉 友良	准教授	知能情報学
加藤 博明	講師	分子生命情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論、機械学習
小林 暁雄	助教	自然言語処理、データマイニング
立間 淳司	助教	情報検索、パターン認識
吉田 光男	助教	ウェブ工学、自然言語処理

【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
堀川 順生	教授	神経科学、聴覚情報処理
北崎 充晃	准教授	心理物理学、認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
杉本 俊二	助教	神経科学
東 広志	助教	生体信号処理

【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン、画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
山本 一公	准教授	音声言語情報処理
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング、システムソフトウェア
神納 貴生	助教	画像信号処理
デシルバラビンドラ	助教	社会的ロボティクス、人-ロボット間での対人距離、ユーザモデル、対人関係の微調整

【兼務】

井佐原 均 (情報メディア基盤センター 教授)
 市川 周一 (電気・電子情報工学系 教授)
 上原 秀幸 (電気・電子情報工学系 教授)
 桂田 浩一 (国際交流センター 准教授)
 土屋 雅稔 (情報メディア基盤センター 准教授)
 岡部 正幸 (情報メディア基盤センター 助教)

【事務関係】

事務職員：加藤 恵子、神谷 幸子 (C棟事務室)
 宮崎 早苗、山本 沙愛 (F棟事務室)
 技術職員：宮脇 治雄、片岡 嘉孝、小西 和孝

【学生現員】

学部：1年次 16名、2年次 17名、3年次 93名、4年次122名
 修士：1年次 92名、2年次 97名



新任教員より

情報・知能工学系(中内研究室) 助教 東 広志



2014年4月1日付けで情報・知能工学系に助教として着任しました東広志です。出身は宮崎県都城市で、都城高専 電気工学科に通ってました。高専を卒業後に、東京農工大学 電気電子工学科に3年次編入しました。その後、同大学で2013年12月に博士(工学)を取得しました。豊橋に来て1月で10ヶ月目ですが、生活にはすっかり慣れて、快適に暮らしております。

私は、脳信号(主に脳波)から、意味のある情報を取り出す研究を行っています。この研究は、まだまだ謎が多い脳を理解することと、脳から得られる情報の工学的な応用(例えば、脳マシンインターフェイスやニューロマーケティング)を目指しています。このような研究には、解決すべき問題もたくさんあり、まだまだこの研究が我々の日常生活に貢献するのは難しいのが現状です。しかし、1年1年、着実に研究を進めていくことに加えて、10年・

20年程度の(研究の世界では)中期的な視点で目標を定めて、未来が来るのが楽しみになるような技術を実現させたいと考えています。

脳信号に限らず、何らかの観測信号(例えば、音声、画像、無線信号)から所望の成分を取り出す技術は、信号処理と呼ばれています。現在、視覚認知情報学研究室(主催者:情報・知能工学系 中内茂樹教授)に所属しており、これまでの研究とは違った分野で、信号処理に関する技術を活かせる機会と設備に恵まれています。これから、本格的に学生との共同研究が始まるので、とても楽しみにしています。

研究室と学生実験を通して、「真面目で黙々と取り組んでいるが、自分の意見をしっかり持っている。そして頑固」という学生の雰囲気を感じています。このような学生の長所を学びつつ、一人ひとりと向き合いながら、先生方の指導・教育をよく観察し、研究室と学生を支えていくことを目指します。よろしくお願いします。

情報・知能工学系(梅村研究室) 助教 吉田 光男

2014年4月1日付で情報・知能工学系の応用数理ネットワーク研究室(梅村研究室)に助教として着任した吉田光男です。学部から博士まで一貫して筑波大学で学び、2014年3月に同大学院システム情報工学研究科(山本幹雄研究室)にて博士(工学)の学位を取得しました。研究室でご指導いただいた山本幹雄先生、滝沢穂高先生のお二人は、筑波大学に着任する前に本学で教壇に立たれており、本学との縁を感じます。

ウェブ検索エンジンの高度化を目指し、これまではウェブページのコンテンツ部分を抽出したり、検索キーワードのカテゴリを特定したりする研究に取り組んできました。現在はソーシャルメディアのデータ活用に興味があり、自然言語処理やグラフ理論を応用し、投稿者の位置や情報

の拡散範囲を推定する研究に取り組んでいます。ウェブで流通しているデータの活用方法を考えるのが好きで、データ収集プログラムを書いたりサーバのストレージにデータを蓄積しています。単なる肥やしにならぬよう、自身

の研究にはもちろんのこと、ウェブデータを利用する研究者や企業と連携しながら、より便利な社会を目指して研究を進めたいと思っています。

学部生の時、研究成果を社会に還元するために大学発ベンチャー企業を設立しました。この会社では、ニュース



の検索サービスやソーシャルメディアの分析サービスを提供しています。周囲のご理解もあり、現在も代表取締役を兼業しています。また、博士学生の時、北京（中国）の Microsoft Research Asia で9ヶ月にわたる研究インターンをする機会に恵まれました。ここで知り合った若手研究者の（卵だった）皆さんとは、今でも連絡を取り合い、研究課題によっては共同で研究を進めています。これら

の経験を、学生の皆さんが何かに挑戦するきっかけに使えないものかと考えています。

本学に着任してから10ヶ月ほどがたち、幾つかの授業を担当する傍ら、学生の皆さんとともに研究も進めています。まだまだ駆け出しの教育者、研究者ではあるのですが、精一杯取り組んでおります。同窓会の皆様、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



退職教員より

奥三河の東海自然歩道の踏破はいかが？

情報・知能工学系 名誉教授 中川 聖一

旧情報工学系（現情報・知能工学系）に所属していました中川聖一です。平成26年3月31日をもって昭和55年4月1日から34年間勤めてきました本学を無事定年退職しました。「無事」とか「大過なく」という後ろ向きな言葉は、若いこれからは人には、違和感を覚えられかもしれませんが、定年まで最大限努力してきた者には、ぴったりの言葉だと思ふようになりました。現在は、文科省の博士課程教育リーディングプログラムに本学が採択された「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」（略称：ブレイン情報アーキテクト）という博士課程5年間一貫教育に特任教授として携わっています。豊橋・東三河を第二の故郷とする同窓生の皆様に、私の関わった東三河の紹介をして、退職のご挨拶としたいと思います。

私の研究室の1泊2日の夏旅行は、夏登山が定着していました。もともと私自身が、学生時代から旅行好きで、夏休みや春休みには、1週間～10日間かけて、全国を一人旅していて、何回かは友人と山小屋で泊まりながらアルプス縦走もしていました。研究室の夏登山は、技科大に講師として赴任（1980年）後、しばらく経ってから、1988年と1995年に富士山を登ったのがきっかけとなりました。それ以降は、ほぼ隔年の割合で夏登山を行ってきました。私自身は毎年夏登山をしたかったのですが、半数くらいの学生には、夏登山は評判が悪く、そのため何となく隔年に定着したような気がします。幸い最近、学

生の方が諦めて、毎年夏登山という雰囲気になっていました。研究室の意識改革には、10年以上を要したことになります。以前の協力研究室であった宇津呂研（現在筑波大教授）、その後継の秋葉研とは諸行事は合同で行い、夏登山において、教員の方が学生よりも脚力があるというのを見せつけてきました。しかし、さすがに私が60歳を過ぎてからは、学生の平均並みとなり、最近では平均以下の脚力になってしまいました。今までの研究室の夏旅行で、富士山2回、御嶽山、白山、焼岳、乗鞍山、木曾駒ヶ岳、蓼科山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、瑞垣山、伊吹山、大峰山、荒島岳（いずれも日本100名山）、小秀山（日本200名山）など2000～3000メートル級の山を登ってきました。下山後の温泉地での宴会がこの上ない楽しみでありました。時には、道に迷って真っ暗になり、携帯電話の明かりを頼りに「右よし、左よし」と声をかけながら、下山したのも思い出の一コマです。

近くに目を移せば、豊橋自然歩道という夕張山系（湖西連峰）のハイキングコースがあります。2008年5月に、運動好きのブラジルの留学生（ナカノ君）と二人で、二川駅から西郷小学校まで、約20キロのアップダウンの尾根を7時間かけて縦走したことも懐かしい思い出です。この時の天候が小雨だったのが残念で、2012年4月の研究室新入生歓迎会で、学生達を誘って二川駅から石巻山まで縦走しました（石巻山荘への下山道を間違った失敗談つき）。

個人的には、週末に一人で奥三河地方の山を登ってきました。数時間歩いて、一人も出会わないことも度々ありましたが、山の空気はおいしく気分転換になりました（と言いついて聞かせて）。しかし、車で登山口まで行く場合、下山も同じ登山口に戻って来ざるを得ず、上りと下りが同じ登山道では飽きてきます。そこで、車に自転車を積んで、下山口に自転車を置いておき、別の登山口から登ったことも何回かあります。あれこれしているうち、「奥三河を歩こう」という奥三河観光協議会主催の登山・ハイキング企画を知り、「奥三河8ピークスを目指そう（全8回）」や「東海自然歩道：奥三河完全走破（全9回）」というのに

参加したこともあります。出張等の理由で参加できなかったコース（および、奥三河境の伊勢神峠～岐阜県境の奥矢作湖まで）は、別の機会に、一人で歩きました。この東海自然歩道コースには、阿寺の七滝、行者越え、鳳来寺、瀬戸岩、宇連山、鞍掛山、岩古谷山、などの観光ポイントや東海自然歩道一と言われる難所があります。なかでも紅葉時の鳳来寺山から棚山までのルートが素晴らしいです。皆様にはこのルートと東三河の名峰「明神山」を是非お勧めしたいと思います（まずは本宮山で、足慣らしを）。



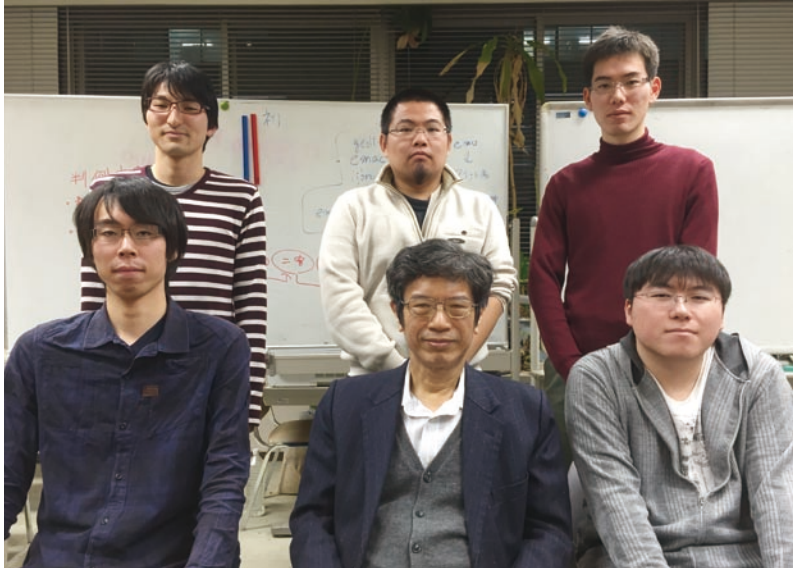
研究室主催・退職記念パーティ（2014.6.7, 熱海）



研究室だより

増山研究室の近況

情報・知能工学系 助教 小林 暁雄



卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

当研究室は、2010年の学科再編により、知識情報工学課程（旧7系）から情報・知能工学課程（新3系）所属となり、研究室名も増山研究室から言語データマイニング・アルゴリズム研究室へと変化いたしました（研究室のドメイン名も smlab から la に変更となりました）。その間、2005年から当研究室の助教を務められておられた酒井浩之先生が成蹊大学理工学部情報科学科の講師としてご栄転されました（現在、同大学にて准教授を務めておられます）。現在は、教員は増山教授と小林助教の2名と太田研究員、学生は博士前期課程2年が5名、1年が4名、学部4年生が5名所属し、計17名となっております。

近年の当研究室の研究動向につきまして、主に、ウェブ上から取得可能なデータを対象としたテキストマイニングに関する研究を行っております。

まず、太田研究員を中心として、特許文書・拒絶理由書に関わる解析を行っています。また、現在、成蹊大学酒井准教授の下で助教をされておられる、当研究室OB

の坂地泰紀先生のご協力の下、国内最大の動画共有サービスであるニコニコ動画に関するデータの解析の研究を行っております。また、その他ウェブサービス、特にSNSを対象とした研究を行っております。研究活動の詳細は、当研究室のホームページ (<http://lacstut.ac.jp/>) にて随時公開してまいりますので、ご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍を心よりお祈りすると共に、今後も当研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。

小林研究室の近況

研究室学生一同

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、日々御健勝のことと存じます。本稿では、情報・知能工学系並列処理研究室の近況を報告いたします。

現在、当研究室では小林良太郎講師をはじめ、以下、修士課程4名、学部生5名の計10名で活動しています。当研究室では、主にプロセッサ・アーキテクチャ、ネットワークセキュリティの2つの分野について研究活動を行っております。

プロセッサ・アーキテクチャの研究では、その名の通り現在様々な機器の心臓部として利用されているマイクロプロセッサの処理能力向上・消費電力削減を目指し、新たなアーキテクチャの発案・検証を行っております。ネットワークセキュリティの研究では、現在世界中で行われているネットワークを介した標的型攻撃を防ぐため、攻撃の検知や検知後の防御策を研究しております。以下に現在研究室で取り組んでいる研究テーマの例を示します。

○キャッシュメモリの省電力化

キャッシュメモリの容量は数十KB～数MBとメインメモリの数GBと比べるととても小さなものです。しかしながら、この機構はプロセッサの動作において非常に重要なものとなっています。このキャッシュメモリの動作を高速にすることや消費電力を下げる事は、プロセッサの処理能力向上と消費電力削減にも大きく貢献することになります。キャッシュメモリにデータを保存する際に、データを圧縮することでキャッシュメモリの回路面積、消費電力を削減する研究を行っております。

○分岐予測機構の消費電力の削減

近年のプロセッサでは、分岐予測機構による高速化が不可欠です。しかし、分岐予測機構は回路面積・アクセス回数が大きく、プロセッサ全体で見ても消費電力が大きな機構です。分岐予測機構の消費電力削減は、プロセッサ全体に対して利益をもたらしますが、分岐予測機の性能低下はプロセッサの性能を大きな損害を与えるため、性能低下を抑えた消費電力削減手法を研究しております。

○HTTP-GET Flood 攻撃対策

様々な攻撃方法の1つとして、DoS攻撃の一種であるHTTP-GET Flood攻撃に着目した研究を行っています。HTTP-GET Flood攻撃の一般的な対策として挙げられる、ルータやiptables等のファイアウォールを用いた単純なフィルタリングでは、攻撃者自身に対策を行っていることが気づかれてしまう恐れがあります。これを防ぐため、攻撃者の動向に着目し攻撃者に攻撃が成功しているかのように見せかける研究を行っています。

○広帯域ネットワークのDDoS 攻撃検知

HTTP-GET Floodとは別に、ボットなどによって攻撃を分散することで攻撃者の判別が難しくなる、DDoS攻撃に着目した研究も行っていきます。DDoS攻撃を検知するためには、単純なカウンタとは別に、複雑な解析が必要となります。この解析を、広帯域のネットワークを流れるパケットを対象にリアルタイムで行うための機構を作成する研究を行っています。

ご多忙とは存じますが、お近くにお越しの際はお気軽に研究室へとお立ち寄りください。最後となりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を研究室員一同、心よりお祈りしております。



学内近況報告

環境・生命工学系 系長 角田 範義

同窓生の皆さまにおかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。学内再編に伴い2010年度に環境・生命工学系が発足して5年が経過します。物質工学課程・エコロジー工学課程を最後に卒業し、進学した学生のほとんどがこの3月に博士前期課程を修了し、2015年4月からは旧課程を知らない学生が大半を占めることになります。これで再編もほぼ完成となり、環境・生命工学系をいっそう発展させるべく教育・研究活動に努力して参りたいと存じます。

前号の同窓会報以降の教員の異動に関しては、2014年3月に菊池洋先生・竹市力先生が定年退職されました。菊池先生は1995年2月に着任され、エコロジー工学系では系長を務められ、2008年4月からの6年間は、副学長としてご活躍されました。菊池先生は定年退職後、引き続き本学で特任教授としてご活躍されましたが、2014年9月に早稲田大学理工学術院教授として異動されました。竹市先生は1979年6月に物質工学系に着任され、物質工学系、学内再編後の環境・生命工学系で34年間の長きにわたりご活躍されました。その間、物質工学系で系長を務められるなど本学の教育・研究にご尽力いただきました。同じく2014年3月をもって廿日出好先生が近畿大学工学部に異動されました。原口直樹先生は2014年3月に准教授に昇任され、2014年4月から1年間は高専・豊橋技術科学大学交流で豊田高専にて教育研究活動を行っており、2015年4月に復帰される予定です。一方、新任教員として2014年10月に有吉誠一郎先生が准教授として先端環境技術分野に着任されました。電磁波検出器応用研究室を立ち上げ、田中三郎先生のグループと共同して教育研究にご活躍されています。

現在環境・生命工学系に所属する教員は、先端環境技術分野、生態工学分野、生命工学分野、分子機能化学分野の教育研究分野で引き続き活発な研究活動を行っております。研究室一覧については、表にまとめてありま

すのでご参照ください。また、質の高い活発な教育研究活動を証明するかのようにより、今年度も学生・教員の受賞等が数多くありました。最新の情報は環境・生命工学系ホームページをご覧ください。

既にご存知の方もおられるかとは思いますが、2012年度には「国立大学改革強化推進事業」、2013年度には「博士課程教育リーディングプログラム」及び「研究大学強化促進事業」にそれぞれ採択され、加えて2014年度、「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されました。これら事業の詳細につきましては、本学ホームページに記載されていますので是非ご覧ください。このように本学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しておりますが、今後とも環境・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



研究室だより

同窓生の皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。本稿では静電気応用研究室・高電圧プラズマ応用研究室の近況についてご報告します。水野彰教授・安田八郎助手・私の3名が静電気応用研究室、高島和則教授が高電圧プラズマ応用研究室に所属し、共同で研究室を運営しています。教員4名のほか、博士研究員1名、研究員1名、秘書1名、M2 10名・M1 6名、学部学生8名で構成され、各人が日々研究に取り組んでいます。

研究室では、高電界・静電気工学をベースとして、高電界で発生させるプラズマを利用する環境技術の開発、あるいはプラズマや静電気力などを生命科学分野に応用する研究を中心に行っています。高電界で発生させるプラズマを利用する環境技術の開発では、現在社会的にも急務であるディーゼルエンジン排ガスの浄化、室内空気中の浄化、有機物の分解除去などに関する研究を行っています。ディーゼルエンジン排ガスの浄化では、電気集塵技術を用いてフィルター等では除去することが困難な直径数十ナノメートル程度の微粒子の高効率捕集技術の開発を行っています。併せて非平衡プラズマによる化学反応を利用してディーゼルエンジン等の排ガス中の窒素酸

化物や硫黄酸化物等の除去を行うガス浄化技術の開発研究を行っています。これらの研究は企業と共同で行われ、実用化に向けて一層研究を進めております。また放電プラズマの生命科学への応用では、2012年に文科省の新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」が発足し、本研究室では計画班として領域に参画しています。プラズマ医療応用はここ数年で世界的に進展している分野で、プラズマ照射によるがん細胞の選択的殺滅や、皮膚疾患や傷病組織の治癒や再生など画期的な成果が続々と報告されています。本研究室では、これまでのプラズマに関する研究と生体分子の観察・操作技術を融合させ、さらに動物細胞を用いた実験を立ち上げるなどしてプラズマと生体との相互作用の解明を進めています。

これら日々の研究成果は国内外で発表され、学生にとって貴重な経験になっております。今年度も修士の学生数名が韓国や中国で口頭発表を行ってきました。また、学会などで賞をいただいた学生もおります。研究室の最新情報はホームページ (<http://www.ens.tut.ac.jp/electrostatics/>) で随時更新しておりますので、ぜひ御笑覧ください。



H26環境・生命工学系現員表

本務教員				兼務教員				
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名		
未来環境工学コース	先端環境技術	センシング応用研究室	田中 三郎 教授	研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授		
		光センシング研究室	有吉 誠一郎 准教授	電気・電子情報工学系	機能性材料科学研究室	松田 厚範 教授 (河村 剛 助教)		
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授				電気分析化学研究室	服部 敏明 准教授
		静電気応用研究室	水野 彰 教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手		プロセス・評価解析研究室	武藤 浩行 准教授		
		高電圧・プラズマ応用研究室	高島 和則 准教授					
		反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授					
		機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 准教授					
	生態工学	環境触媒化学・資源再生化学研究室	角田 範義 教授 大北 博宣 助手	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授		
		無機材料物性評価・応用研究室	佐藤 裕久 助教	建設・都市システム学系	水環境工学研究室	井上 隆信 教授		
		持続社会工学研究室	後藤 尚弘 准教授					
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師					
	生命物質工学コース	生命工学	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	健康支援センター	運動生化学研究室	佐久間 邦弘 准教授	
			生物機能工学研究室	平石 明 教授 山田 剛史 助教	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授	
					情報・知能工学系	聴覚情報研究室	堀川 順生 教授	
			遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授				
			生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 准教授				
生体分子工学研究室			吉田 絵里 准教授					
生命科学研究室			梅影 創 講師					
生命機能科学研究室		吉田 祥子 講師						
分子機能化学		高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手 原口 直樹 准教授					
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授					
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授					
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 准教授					
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授					
	界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授						
分離分析化学研究室	平田 幸夫 准教授							

環境・生命工学系事務室	B棟事務室	小倉 典子 河合 里沙	技術専門職員	太田 初一 齊藤 年秀 坂井 悦子
	G棟事務室	河合 充代 坂上 千恵子		

「系長より」

建築・都市システム学系 系長 松本 博

卒業生・修了生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。

さて、既にご存知の方も多いかと思いますが、本学の学部・大学院再編に伴い、建設工学系（旧第6工学系）は平成22年度より建築・都市システム学系（第5学系）へと生まれ変わりました。平成26年度末で5年が経過したことになります。ここでは、系の近況も踏まえつつ、再編後の本系の教育体制を改めてご紹介いたします。

建築物は、私達人間に安全・安心で快適な生活空間や活動の場を提供します。この建築物が寄り添って共同体となり、この共同体は電気・ガス・通信・上下水道等のライフラインや道路・鉄道などの交通ネットワークで有機的につながり、ダイナミックで魅力的な都市が形成されます。また、建築や都市は過去・現在の時間を超えて空間の記憶として、地域の伝統や文化を醸成し未来へ伝承されます。

建築・都市システム学課程・専攻は、主として建築学、土木工学（社会基盤工学）を基盤に、衛生工学及び社会工学の一部が融合した課程・専攻になっています。建築学及び土木工学は、都市・建築の計画・デザイン・構造計画・環境制御に関する研究・開発を通して、安全・安心・快適で持続可能な都市・建築を創造する学問です。最近では、従来の研究に加えて建設分野における環境負荷の低減や防災・減災に関する研究にも力を入れています。

建築・都市システム学課程・専攻の教育内容は、学部1・2年次はリベラルアーツを中心とした教養教育に加えて基礎的な専門科目を学び、学部3年次の前期では建築学及び土木工学に共通な専門科目を中心に実践的でグローバルな視野をもつ技術者に必要な専門知識や考える力を養います。また、学部3年次の後期から建築コースと社会基盤コースに分かれ、それぞれの分野で高度な専門教育を受けると共に学生の希望に応じて研究室に配属され、研究室毎にゼミや卒業研究等のグループ指導が始まり、卒

業研究と実務訓練を通して、より実践的な技術者に必要な素養を身につけます。

大学院進学後は、学部での教育をベースにさらに高度な教育・研究を継続的に実施し、実践的・創造的能力を有する技術者・研究者を育成します。なお、本課程の教育は、建築コースと社会基盤コースの2コースともJABEE（日本技術者教育認定機構）に認定され、建築コースは1級建築士受験のための卒業要件にも対応しており、大学院修士課程では、所定の科目を履修することにより学部卒業後1年の実務経験が免除されます。

「社会が求める技術者像」に対しては、同窓生を含めた様々な方よりご意見を頂きながら、その変化に対応した教育システムの改善を図っています。平成28年度にはJABEE認定プログラムの更新を申請する予定であり、より良い技術者教育を実践できるよう教職員が結束して取り組んでいます。

末筆ながら、皆様におかれましては今後ともお元氣でご活躍されることをお祈り申し上げて、近況報告とさせていただきます。

教職員一覧（2015年1月現在）

[建築・都市デザイン学分野]

教授：松本 博（系長）、松島史朗、斉藤大樹、中澤祥二、浜島昭二（兼任）

准教授：泉田英雄、浅野純一郎、松井智哉、垣野義典、松本幸大、中森康之（兼任）

助教：近藤恵美、水谷晃啓、辛島一樹、林 和宏

[都市・地域マネジメント学分野]

教授：廣島康裕、河邑 眞、三浦均也、井上隆信、宮田 譲、藤原孝男（兼任）

准教授：澁澤博幸、加藤 茂、横田久里子

助教：岡辺拓巳、松尾幸二郎、松田達也

[両分野]

技 官：金田隆文、片岡三枝子



研究室だより

交通計画・交通工学研究室の近況報告

建築・都市システム学系 助教 松尾 幸二郎

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。研究室だよりということで、私からは建築・都市システム学系の交通計画・交通工学研究室の紹介と近況について報告させていただきます。

さて、交通計画や交通工学を研究していると言うと、「どんなこと研究しているの?」と聞かれることがあります。交通工学・交通計画学は土木工学の中の土木計画学という中の一分野という位置づけになります。土木工学は英語で Civil Engineering といわれ、直訳すると「市民の工学」という意味になります。これには、土木工学が、「市民が安全・安心・快適に生活や社会活動を営むための基盤を整備・維持するための学問」であるという意味が込められていると考えています。そして市民が生活や社会活動をするのに欠かせないのが人や物の移動、すなわち「交通」であり、そのための基盤やシステムをどのように構築・維持・修正していくかを計画するのが交通計画学・交通工学の役割といえます。そのような考えのもと、本研究室では、交通現象を科学的・工学的に捉え、安全・安心・快適でかつ環境負荷が小さく、地域社会と調和のとれた交通システムのあり方とその実現方策を追求するための研究に取り組んでいます。研究対象は、自動車交通、自転車交通、歩行者交通、公共交通、物流交通、災害時交通など様々です。具体的に最近取り組んでいる主なテーマは、交通シミュレーション等を用いた道路網整備計画や交通管理計画の評価手法に関する研究、公共交通空白地域における地域公共交通導入の効果影響に関する研究、ITS を活用した生活道路における交通静穏化に関する研究、交通ビッグデータを用いた道路交通管理に関する研究などです（この他にも様々な研究を行っています）。

さて研究の話はこのぐらいにして、現在、本研究室は、2名の教員（教授：廣島康裕、助教：松尾幸二郎）と、11名の学生（留学生1名を含む博士前期課程：5名、学部生：5名、特別聴講生1名）で構成されています。毎年夏頃にゼミ合宿を開催しているのですが、今年度は9

月に1泊2日の日程で修善寺に赴き、閑静な宿でゼミを行いつつ、温泉街を散策し、源範頼の墓や義経像を拝見して中世に思いを馳せました。また、12月には、本学の高専連携教育研究プロジェクトの一環として、高専の交通計画系研究室と合同で地域交通計画セミナーを実施しました。本セミナーは平成23年度から毎年1回開催しており、今年度で4回目となりました。今年度は、香川高専、長野高専、豊田高専、近畿大学高専、豊橋技科大から教員・学生併せて19名の参加があり、1泊2日で、学生それぞれの研究課題の発表やディスカッション、懇親会、豊橋周辺見学会（二川宿本陣、浜松防波堤）などを実施し、盛況のうちに終了しました。その他、例年に比べて特別多い11名もの高専生に参加していただいた高専体験実習（8月）やオープンキャンパス（8月）、交通児童館での交通シミュレータ・ドライビングシミュレータの展示（10月）など様々なイベントがあり、忙しくも充実した1年となりました。

研究室の研究や活動の一部は、研究室のホームページ（<http://www.trace.tut.ac.jp/>）で紹介していますので、興味のある方はぜひご覧になってください。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のますますのご活躍をお祈りしますとともに、今後とも交通計画・交通工学研究室をご支援くださいますようお願い申し上げます。





退職教員より

元・建築・都市システム学系 教授 山口 誠

豊橋技術科学大学に赴任してきたのは、1995（平成7）年の4月でした。19年経ちました。公務員として13年、教員生活27年、計40年。先人たちの言葉のように「思い返すとあつという間」でした。本人としては充実した楽しい時間を送ることができました。ひとえに皆様からのご協力・ご支援のたまものです。技科大の創立後半分くらいの期間、皆様とご一緒できたわけです。当初は人文・社会工学系所属でしたので、他系の卒業生にも多く接することができました。筑波大学の3年間、江戸川大学の5年間も合わせて学生諸君・諸嬢には厳しい授業だったかもしれません。将来役に立つようにという思いでした。何人かでも省みて有意義な授業だったと思って貰えたでしょうか？

退職後は、一層楽しい時間を過ごしたいと思い、あれこれと計画などを練って、専門を生かした老後活動シミュレーション等を行いバラ色の老後を夢想しておりました。客員教授としてしばらくの間は研究の集大成を行えることになり、元々趣味から始まった地域計量モデルを継続できる環境を頂いたことも幸いでした。しかし、大学の都合で、ほとんどの授業を1年間続けることになった時は一寸慥然としたものでした。まあ、すべてうまく行くことはないでしょう。

4月からは、棄却済みの授業資料をまとめ直す作業に時間が掛かりますが、その他は自らの3大趣味（計量モデル、SF、武道）を続けています。SFの方は昔のものを再読しています。武道は、体力の回復というか調整のために、毎日30分・2セットの軽めのオリジナルトレーニングをやっています。先日、棒（棒術の棒で、180cm、直径4.5cm、3kg）を振ったら青息吐息の状態だったので、まずは基礎体力の回復が先と思ったわけです。

SFと武道の愛好は50年以上、計量モデルは40年続いています。他にも趣味ばかりの様な人間ですので、今後はできるだけ長く趣味に生きたいと考えています。

昔、学生生活委員長の時、学生への言葉として3つの発見（生涯の師、生涯の友、生涯の趣味）を提案しました。在校生・卒業生の皆さんに改めて提案します。若い内に生涯の3つの発見をして下さい。見つけることができれば、生涯、充実した楽しい生活を送れますよ。自分では見つけることができ、楽しい人生を送っていると思っています。

最後に、卒業生の皆様のご活躍・ご健康と本学のさらなる飛躍・発展をお祈り申し上げます。



最終講義の後の記念撮影

近況報告

総合教育院

平成 26 年度より、総合教育院長に井上光輝理事・副学長が就任されました。また、新しく 2 名の先生が着任されました。

総合教育院教員一覧（平成 27 年 1 月 9 日現在）

【総合教育院】

総合教育院長： 井上 光輝
教 授： 加藤 三保子
鈴木 新一
藤原 孝男
准 教 授： 相京 邦宏
佐久間 邦弘
中森 康之
Levin, David
講 師： 和泉 司
笹尾 洋介
中村 大介

【兼務教員】

教 授： 宮田 譲
准 教 授： 澁澤 博幸
Ryan, Eugene



着任のご挨拶

総合教育院 講師 中村 大介

平成 26 年 4 月に哲学及びフランス語の講師として総合教育院に着任しました。もともと理系畑の出身で、学部時代は早稲田大学工学部にて数学と物理学を学んでいたのですが、大学院より関西学院大学大学院にて哲学の勉強を開始し、最終的にはパリ西大学で博士号を取得しました。

専門は数学の哲学、エピステモロジー（科学認識論）、フランス哲学で、博士論文ではジャン・カヴァイエスというフランスの数理哲学者を扱いました。もともと現代フランス思想を深く知る目的で、カヴァイエスの哲学を学び始



めたのですが、彼の思想はそれ単独でも非常に魅力的であり、数学の哲学という領域にも関心をもつようになりました。また、カヴァイエスと同じエピステモロジーの系譜に属するジルベール・シモンドンという人の技術哲学も研究しています。カヴァイエスもシモンドンも、数学や技術の自由や創造性とは何か、という共通した問題意識を抱いていました。

科学や技術の創造性を考察していくことと平行して、それらが現代社会にもたらす様々な問題を、エピステモロジーの見方を発展させたミシェル・フーコーの権力論や、ジャン＝ピエール・デュビュイという哲学者の破局についての考えを参照しながら考えています。さらに、哲学、科学、文学、宗教などの関係をもう一段深いレベルで捉えるためにはヨーロッパ近世の哲学に遡る必要があ

る、と最近強く感じています。

専門の研究以外では、大学での奨学金を得てフランスに留学し、フランス語の能力を磨くことができたのも大きなことでした。まだまだ足りないところもありますが、外国語を学ぶということが、単にコミュニケーションの道具を得ることではなく、新たな物の見方、世界観を獲得し

総合教育院 講師 和泉 司 (いずみ つかさ)

2014年4月より、総合教育院に講師として着任いたしました。

私は総合教育院で、主に国語表現法と国文学（日本文学）を担当しています。出身学部・大学院も、これまで働いてきた学校も、ほとんど文学部か教養課程の文学か語学の日本語だったので、理科系大学の雰囲気にとっても独特なものを感じています。技科大で、最初に「“理系”の大学なんだなあ」と思ったのは、廊下に「緊急シャワー」が設置されているのを見たときでした。さすがの私でも、そのシャワーがなんのためにあるのかくらいはわかったのですが、高校の化学の授業以来、「実験」というものに縁のない生活をしてきたせいも、緊急シャワーに“理系”の象徴のようなものを感じたのでした。

次に驚いたのは、構内にチャイムが鳴らないことでした。最初の授業で、ちょっと時間がオーバーしたかな、と気になって時計を確認するとすでに授業時間を越えていたので慌てました。後に、理系の学校に限らずチャイムのない大学もある、という話を聞いたのですが、その時は「これが“理系”…」としみじみしていました。

それでも、授業をしていると、そこで会う学生たちは理系も文系も関係なく、静かに授業を聞いて、小論文やレポートではきちんと反応を見せてくれ、教員としては大変ありがたいと思っています。「文学」の授業でも、様々な興味や関心を示す学生がいて、その反応が嬉しく、話しすぎてしまうこともあります。現在、「文学」の研究は小説作品に限らず「物語」性を持つもの全般に広がっていますが、そのような「文学」に触れて、社会の中でそれらがどのように生み出され、受容され、消費されるかについて学ぶことは、技術者・研究者としての仕事や生活の上でも大切になるだろうと信じて、授業をしています。

ていくことでもある、ということが分かったのは私の人生で大きなことでした。以上の背景のもと、哲学の面白さを、また、フランス語に限らず外国語の重要性や楽しさを、本学の皆さんに少しでも伝えていければと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日常生活では、豊橋に来てから、満員電車での通勤をしなくてもよくなり、それがとてもありがたかったです。長い間埼玉県に住み、東京・神奈川の学校に長距離通学・通勤してきたので、私は学校・勤務先の近くに住むことにあこがれていました。今は自転車通勤をしていますが、自分の体力の衰えを痛感しつつも、時刻表を気にせず、時間に追われずに通勤できる気分の良さを味わっています。

まだまだ豊橋のこと、技科大のことで知らないこと、わからないことが多いですが、今の新しい環境は私にとって得難く、代え難いものです。これからも、学生、大学、そして自分自身のために、多くの貢献ができるよう、努力していきたいと思っています。



平成25年度 旧系同窓会収支報告・事業報告

旧2系(豊友会)事務局から

平成25年度収支報告(H25.4.1~H26.4.30)

■ 収支の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,086,287
会費(各系分配金)	0
普通預金利息	731
収 支 合 計	4,087,018

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
名簿更新作業代	14,000
次年度繰越金	4,073,018
支 出 合 計	4,087,018

平成26年度収支報告(H26.4.1~H26.12.31)

■ 収支の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,073,018
会費(各系分配金)	0
普通預金利息	363
収 支 合 計	4,073,381

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
名簿更新作業代	28,000
※同窓会本部へ会計移動	4,045,381
支 出 合 計	4,073,381

※平成26年12月31日の会計をもって豊友会予算管理は豊橋技術科学大学同窓会本部に移動となります。
平成27年4月25日に移管手続きを終え、豊友会での会計は終了しました。

旧3・4系同窓会平成25年度会計報告

■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
平成24年度繰越金	6,755,498
預金利息	1,024
収 入 合 計	6,756,522

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
次年度繰越金	6,756,522
支 出 合 計	6,756,522

※平成26年12月31日をもって旧系同窓会での会計は終了し、2008年3月22日に開催した第1回三志会繰越金(786,450円)を除き、
全学同窓会会計へと一元化されます。
平成27年4月21日に移管手続きを終え、旧3・4系同窓会での会計は終了しました。

旧6系(建設工学系)同窓会収支報告

■ 収支の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	1,784,066
会費	0
預金利息	107
収 入 合 計	1,784,173

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
会報経費	0
名簿管理経費	0
小 計	0
次年度繰越金	1,784,173
支 出 合 計	1,784,173

※平成26年12月31日の会計をもって旧系同窓会での会計は終了し、全学同窓会会計へと一元化されます。
平成27年2月25日に移管手続きを終え、旧6系同窓会での会計は終了しました。

旧7系(知識情報工学系)同窓会収支報告

平成25年度収支報告

■ 収入の部

項 目	平成 25 年度決算
前年度繰越金	4,813,030
会費	0
預金利息	766
収入合計	4,813,796

■ 支出の部

項 目	平成 25 年度決算
会報経費	
会報発送費	0
会報発送作業費	0
原稿執筆御礼	0
庶務経費	0
小 計	0
次年度繰越金	4,813,796
支出合計	4,813,796

平成26年度収支報告

■ 収入の部

項 目	平成 26 年度決算
前年度繰越金	4,813,796
会費	0
預金利息	787
収入合計	4,814,583

■ 支出の部

項 目	平成 26 年度決算
会報経費	
会報発送費	0
会報発送作業費	0
原稿執筆御礼	0
庶務経費	20,000
振込手数料	432
小 計	20,432
全学会計移管金	4,794,151
支出合計	4,814,583

※H26年度の庶務経費は、総会案内ハガキの整理、名簿データ更新、およびWeb会員システム移行のためのデータ整理の作業アルバイト代です。

なお、平成26年12月31日をもって旧系同窓会会計は終了し、全学同窓会会計に一元化されます。

平成27年2月26日に移管手続きを終え、旧7系同窓会での会計は終了しました。

旧8系同窓会収支報告(H25年度)平成25年4月～平成26年3月分

■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,434,589
預金利息	702
収入合計	4,435,291

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
小 計	0
次年度繰越金	4,435,291
支出合計	4,435,291

※平成26年12月31日をもって旧系同窓会会計は終了し、全学同窓会会計に一元化されます。

平成27年6月30日に移管手続きを終え、旧8系同窓会での会計は終了しました。

平成25年度 技科大同窓会決算報告

予算

■ 収入の部

入会金	2,000,000
会費	4,000,000
預金利息	10,000
会報広告費	80,000
H25年度収入計	6,090,000
H24年度からの繰越金※	12,342,535
合計	18,432,535

■ 支出の部

会報経費	500,000
総会案内状等印刷・連絡費	1,000,000
役員経費	65,000
庶務経費	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生活動援助金	500,000
卒業生懇親会開催援助	300,000
Web関連経費	0
新系対応準備金	2,000,000
各系への配分金	0
H25年度支出計	4,665,000
H26年度への繰越金	13,767,535
合計	18,432,535

決算

■ 収入の部

入会金(406名×5,000)	2,030,000	
会費(406名×10,000)	4,060,000	
預金利息	2,032	
郵便普通		168
銀行普通(三井住友)		953
銀行定期(三井住友)		911
同窓会報広告掲載料		
広告費(ブライダル,会報No.30掲載分)	80,000	
H25年度収入計	6,172,032	
H24年度からの繰越金	12,342,535	
合計	18,514,567	

■ 支出の部

会報経費	デジタルブック化(三愛企画)	0	
総会案内状等印刷・連絡費		590,748	
	総会案内往復葉書印刷費		181,000
	総会委任状葉書(返信分・料金後納)		409,748
役員経費	4月21日(第1回役員会)	25,000	
	高嶋会長(交通費含む)		17,000
	役員8名		8,000
	10月12日(総会)	28,000	
	高嶋会長(交通費含む)		17,000
	役員11名		11,000
	1月7日(第3回役員会)	11,000	
	古野会長(交通費含む)		2,000
	役員9名		9,000
	3月12日(第5回役員会)	14,000	
	古野会長(交通費含む)		2,000
	役員12名		12,000
庶務経費		44,955	
	各種振込手数料		2,760
	(印刷代、卒業記念、懇親会開催援助)		
	振替受払通知表等再発行代		20,500
	入会金・会費振込用紙印刷代		1,700
	振替払出し		2,795
	図書カード(会報No.30謝礼・学長・総合教育院2件)		6,000
	学長懇談会経費(会場代+ドリンク代)		11,200
「技科大同窓生集いの部屋」経費		37,946	
	お茶菓子代		9,946
	学生謝金(4,000円×6名+2,000円×2名)		28,000
卒業記念パーティ援助金		250,000	
学生活動援助金		500,000	
卒業生懇親会開催援助		208,000	
	課外活動援助		500,000
	H25年度 極限成形システム研究室同窓会		74,000
	第2回 ギターアンサンブル同窓会		34,000
	豊橋技術科学大学 関西支部・懇親会		38,000
	第4回雲雀会		62,000
Web関連経費		0	
新系対応準備金		2,030,000	
各系への配分金		0	
H25年度支出計		3,739,649	
H26年度への繰越金		14,774,918	
合計		18,514,567	

終身会費(406名分)4,060,000円のうち、半額を新系対応準備金として割り振りました。残りの半額は旧系対応金とします(H24役員会にて承認済)。

平成25年度 技科大同窓会新系対応準備積立金収支報告

■ 収入の部

項 目		金 額 (円)	
繰入金	H25年度分終身会費の半額(406名)	2,030,000	2,030,000
預金利息		2,082	
H25年度収入計		2,032,082	
H24年からの繰越金	利息(平成24年度まで)	13,407,194	2,194
	H21年度分終身会費		3,870,000
	H22年度分終身会費		3,990,000
	H23年度分終身会費		3,560,000
	H24年度分終身会費		1,985,000
合 計		15,439,276	

■ 支出の部

項 目		金 額 (円)	
なし(全額を積み立て)			
H25年度支出計		0	
積立金合計		15,439,276	

※平成26年12月31日をもって技科大同窓会新系対応準備積立金会計は終了し、全学同窓会会計に一元化されます。

平成26年度 技科大同窓会予算

■ 収入の部

項 目	金 額 (円)	
入会金		2,000,000
会費		4,000,000
預金利息		10,000
会報広告費		80,000
旧系管理会費繰入金*1		44,378,995
旧1系	5,172,791	
旧2系	4,561,018	
旧3・4系(手元現金・¥169含む。三志会繰越金は除いた額)	5,970,072	
旧5系(手元現金¥11,267含む)	2,218,367	
旧6系	1,778,384	
旧7系(手元現金¥189含む)	4,803,796	
旧8系(手元現金¥18,735含む)	4,435,291	
新系対応準備金	15,439,276	
H26年度収入計		50,468,995
H25年度からの繰越金		14,774,918
合 計		65,243,913

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)	
会報経費(No.31 & 32)		1,000,000
総会案内状等印刷費・連絡費		1,000,000
役員経費		100,000
庶務経費		50,000
技科大・高専合同海外同窓生交流会出張費(山本副会長)		250,000
卒業記念パーティ援助金		250,000
学生活動援助金		500,000
卒業生懇親会催援助		600,000
技科大同窓生集いの部屋経費		40,000
Web関連経費		0
各系活動支援経費		2,000,000
同窓会管理システム経費(導入+管理費)		4,000,000
H26年度支出計		9,790,000
H27年度への繰越金		55,453,913
合 計		65,243,913

平成26年8月30日に開催された臨時総会にて、会計管理の一元化に伴い、旧系同窓会で管理していた会費、ならびに平成21年度より積立してきた新系対応準備金を、全学同窓会会計に集約することが承認されました。平成26年度の収入において、これらを旧系管理会費繰入金として計上しております。

第62回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

- 1 日 時 平成25年5月25日(土)・26日(日), 6月1日(土)・2日(日), 8日(土)・9日(日), 15日(土)・16日(日), 23日(日), 29日(土)・30日(日)
 7月 6日(土)・7日(日), 13日(土)・14日(日), 8月11日(日)
- 2 場 所 知多運動公園陸上競技場他19会場
- 3 幹事大学 名古屋大学
- 4 成 績

(男 子)

競技種目	名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	5	4.0	3	6.0	6	3.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	1	10.0	4	5.0	
2 水泳	2	8.0	1	10.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	3	6.0	
3 硬式野球	1	8.0	3	4.5	5	2.0	5	2.0	2	6.0	/	/	5	2.0	3	4.5	3位・4位の区別なし 5以下は順位なし
4 準硬式野球	1	8.0	5	2.0	3	4.5	/	/	3	4.5	2	6.0	5	2.0	5	2.0	3位・4位の区別なし 5以下は順位なし
5 硬式テニス	3	6.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	4	5.0	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	雨天中止
7 バスケットボール	/	/	1	6.0	5	2.0	6	1.0	2	5.0	/	/	4	3.0	3	4.0	
8 バレーボール	5	4.0	1	10.0	4	5.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	3	6.0	6	3.0	
9 卓球	1	8.0	3	5.0	5	3.0	7	1.0	2	6.0	/	/	6	2.0	4	4.0	
10 バドミントン	7	2.0	4	5.0	6	3.0	2	8.0	3	6.0	8	1.0	5	4.0	1	10.0	
11 サッカー	3	5.0	2	6.0	6	2.0	/	/	1	8.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0	
12 ハンドボール	3	4.0	1	6.0	4	3.0	/	/	5	1.5	/	/	2	5.0	5	1.5	5位以下は順位なし
13 柔道	1	6.0	2	5.0	4	3.0	5	1.5	3	4.0	/	/	5	1.5	/	/	5位以下は順位なし
14 剣道	3	6.0	1	10.0	5	2.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	4	5.0	5位以下は順位なし
15 空手道	2	8.0	4	5.0	7	2.0	8	0.0	3	6.0	1	10.0	6	3.0	5	4.0	※1 豊技大不参加(委員会後)
16 弓道	4	5.0	5	2.5	3	6.0	5	2.5	5	2.5	1	10.0	2	8.0	5	2.5	5位以下は順位なし
17 体操	2	3.0	1	4.0	-	0.0	/	/	/	/	/	/	-	0.0	/	/	※2 名工大, 愛教大団体戦不参加(委員会後)
18 馬術	2	5.0	6	1.0	5	2.0	/	/	1	6.0	/	/	4	3.0	3	4.0	
19 アーチェリー	3	3.0	4	2.0	/	/	/	/	5	1.0	/	/	2	4.0	1	5.0	
20 少林寺拳法	/	/	1	4.0	/	/	/	/	3	2.0	/	/	2	3.0	4	1.0	
合計得点		93.0		96.5		57.0		24.0		95.5		41.0		68.5		67.5	
男子順位		3		1		6		8		2		7		4		5	

(女 子)

競技種目	名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	5	3.0	4	4.0	6	2.0	/	/	2	6.0	7	1.0	1	8.0	3	5.0	
2 水泳	5	2.0	2	5.0	/	/	/	/	6	1.0	3	4.0	1	6.0	4	3.0	
5 硬式テニス	5	2.0	5	2.0	/	/	4	4.0	1	8.0	3	5.0	2	6.0	5	2.0	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	雨天中止
7 バスケットボール	/	/	3	2.0	/	/	/	/	1	4.0	/	/	2	3.0	4	1.0	
8 バレーボール	4	2.0	2	4.0	/	/	/	/	3	3.0	/	/	-	0.0	1	5.0	※3 愛教大不参加(委員会後)
9 卓球	2	5.0	5	2.0	6	1.0	/	/	1	6.0	/	/	3	4.0	4	3.0	
10 バドミントン	6	2.0	5	3.0	7	1.0	/	/	3	5.0	1	8.0	4	4.0	2	6.0	
12 ハンドボール	/	/	1	4.0	/	/	/	/	3	2.0	/	/	2	3.0	4	1.0	
13 柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	団体戦成立せず
14 剣道	2	5.0	5	1.5	/	/	/	/	4	3.0	5	1.5	3	4.0	1	6.0	5位以下は順位なし
15 空手道	4	2.0	/	/	/	/	/	/	1	5.0	3	3.0	2	4.0	5	1.0	
16 弓道	5	2.5	5	2.5	2	8.0	4	5.0	5	2.5	3	6.0	1	10.0	5	2.5	5位以下は順位なし
17 体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オープン競技
19 アーチェリー	-	0.0	-	0.0	/	/	/	/	/	/	/	/	1	4.0	2	3.0	※4 名大, 岐大不参加(委員会後)
合計得点		25.5		30.0		12.0		9.0		45.5		28.5		56.0		38.5	
女子順位		6		4		7		8		2		5		1		3	

- ※1 男子の空手道競技については、第2回運営委員会後に1大学が辞退したため、8大学が参加したものと、順位(得点)付けを行った。
- ※2 男子体操競技については、第2回運営委員会後に2大学が団体戦不参加となったため、オープン競技とはせず、4大学が参加したものと、順位付けを行った。
- ※3 女子のバレーボール競技については、第2回運営委員会後に1大学が辞退したため、5大学が参加したものと、順位(得点)付けを行った。
- ※4 女子アーチェリー競技については、第2回運営委員会後に2大学が辞退したため、オープン競技とはせず、4大学が参加したものと、順位付けを行った。



同窓会web名簿システム

機械工学系同窓会 役員 田崎 良佑

研究室の同窓会・系の同窓会・学内の各種イベント等で、技科大生活を共にした方々との旧交を益々深めておられることと思います。これまで続けてこられた交流活動の活性化支援、さらに、いまの技科大・在学生と同窓生をつなぐことをサポートする目的で、このたび2015年5月にWeb名簿システムの運用をスタートいたします。このWebシステムは、会員システムと事務局システムの2つの機能があります。会員システムでは主に、ご自身の登録情報の確認・更新（公開情報制限の設定を含む）、Web版会員名簿機能による会員検索・情報閲覧をご利用いただくことができます。事務局システムは同窓会役員が利用し、会員情報の管理、大学・同窓会からの情報発信、同窓会支部・研究室・サークル・企業などの単位グループ作成・管理などを行い、Webシステムを介した交流活性化をサポートいたします。また、英語対応により、本学留学生の同窓会会員である方や、ペナンキャンパスを中心とした海外同窓会支部の方々にもご利用いただけます。運用準備が整いましたら、会員専用webサービスに関する手引きを郵送にてご案内いたしますので、どうぞ楽しみにお待ちください。

同窓会事業報告および予定(平成25年度～26年度)

1. 会報の発行

同窓会報第31号を平成25年度に発行する予定でしたが、25年度中には発行に至りませんでした(平成26年11月に発行しました)。前号(第30号)より印刷製本は行わず、電子化して同窓会ホームページ(<http://www.alumni.tut.jp/>)にて公開しており、随時閲覧可能になっています。同窓生の皆様には郵送による通知もしくは今後稼働予定のWebシステムを通じた電子メールによる通知にて会報発行の周知を行っていく予定です。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成26年3月24日に“アイプラザ豊橋”にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学ひばりラウンジにおいて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。平成26年度(平成27年3月23日)も例年通り行う予定です。

3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で学生活動援助を20団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

4. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成25年度は4団体、平成26年度は6団体(平成27年2月現在)の助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ(<http://www.alumni.tut.jp/>)に掲載されていますので、是非ご覧ください。

5. 役員会の開催

以下のとおり、臨時役員会および定例役員会を開催しました。

- | | |
|---|---|
| ・平成26年1月7日 臨時役員会
(どんべえ(豊橋市)) | 今後の活動予定等について |
| ・平成26年1月24日 臨時役員会(メール審議) | 会計管理の一元化について |
| ・平成26年3月12日 臨時役員会
(豊橋技術科学大学駅前サテライトオフィス) | 海外同窓会(海外支部)について、Web名簿システムについて、
役員会の定例化 |
| ・平成26年5月31日 平成26年度第1回定例役員会
(豊橋技術科学大学駅前サテライトオフィス) | 昨年度活動報告、今年の活動予定について |
| ・平成26年7月30日 平成26年度第2回定例役員会
(豊橋技術科学大学駅前サテライトオフィス) | 海外同窓会について、Web名簿システムの進捗について |
| ・平成26年12月1日 平成26年度第3回定例役員会
(豊橋技術科学大学 C-513会議室) | 海外同窓会イベントについて、Web名簿システムの進捗について |
| ・平成27年2月24日 平成26年度第3回定例役員会
(豊橋技術科学大学 C-402会議室) | 海外同窓会報告、Web名簿システムの進捗について |

なお、役員会の議事録は同窓会ホームページ(<http://www.alumni.tut.jp/>)にて閲覧できます。

6. 大西学長との懇談

平成26年6月30日(月)に、げん屋(豊橋市松葉町)にて大西学長(本会名誉顧問)、大貝理事、井上理事、鈴木理事と、本会の古野会長、高嶋顧問、稲田副会長、山本副会長との懇談を行い、本年度学長に就任された大西学長に同窓会の現状について説明するとともに、大学と同窓会の協調について意見交換を行いました。

7. 臨時総会の開催

平成 26 年 8 月 30 日に臨時総会を開催いたしました。出席者は 25 名（役員 12 名，会員 13 名），委任状は 671 通でした。以下は，臨時総会において議決された重要事項です。

- ・海外同窓生とのコネクションを強化し，豊橋技術科学大学の活動をさらに活発化するために，海外支部を創設し，これまでおろそかであった海外同窓生の活動支援を行うことで，海外同窓生のネットワークを大学・同窓会の活動に活用する。
- ・これまで Excel ファイルベースで管理されていた同窓会員名簿を，Web ベースの名簿管理システムに変更（業者委託）する。海外同窓生もこのシステムに登録することで，住所管理の労力削減を図るとともに，国内・国外を通じて同窓生と大学・同窓会とのコネクション，または同窓生同士のコネクションを強化し，同窓会活動を活発化していく。
- ・これまで旧系に業務（同窓会報発送）委託料として分配され，各系で管理されていた会費を，同窓会本部において一元管理し，資金の有効活用を目指す。同時に，これまで置かれていなかった会計監査役を設置することで，会計の明瞭化を行う。
- ・上記に伴い，これらに沿うように会則を変更する。また，上記のような大きな活動の変化に対して意思決定（議決）を素早く行うことを目的として，これまで 4 年に 1 回しか行われていなかった総会を年次化する。

臨時総会の議事録は同窓会ホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

平成26年度同窓会役員（平成26年4月現在）

会 長：古野 志健男(㈱日本自動車部品総合研究所)
副 会 長：稲田 亮史(豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系(旧電気・電子工学系)),
山本 一公(豊橋技術科学大学情報・知能工学系(旧情報工学系))
事 務 局：山本 一公(豊橋技術科学大学情報・知能工学系(旧情報工学系))
機 械 工 学 系：安部 洋平, 関下 信正, 戸高 義一, 今村 孝, 山田 基宏, 前野 智美,
(1系 会報担当) 田崎 良佑
電気・電子情報工学系：稲田 亮史, 河野 剛士, 高木 宏幸, 秋田 一平, 赤井 大輔, 後藤 太一, 川島 朋裕
(2系 名簿, 援助
活動担当)
情報・知能工学系：加藤 博明, 山本 一公, 山田 実, 小林 暁雄, 立間 淳司
(3系 事務局,
役員会・総会担当)
環境・生命工学系：佐藤 裕久, 栗田 弘史
(4系 会計担当)
建築・都市システム学系：岡辺 拓巳, 松本 幸大, 松尾 幸二郎
(5系 HP・ML担当)
顧 問：高嶋 孝明(豊橋技術科学大学国際協力センター)
名 誉 顧 問：豊橋技術科学大学学長 大西 隆

* 各系役員へのメールは、admin_#@alumni.tut.jp (旧系) またはadmin_n#@alumni.tut.jp (新系)
に系番号を入れて下さい。

会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、下記振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 0873445

加入者名 豊橋技術科学大学同窓会代表 佐藤 裕久

電子メールアドレスの登録のお願い

同窓会報の発行や同窓会からの案内を電子メールでお伝えする予定です。電子メールのアドレス登録はホームページ上(<http://www.alumni.tut.jp/>)の住所変更用フォームを利用して手続きができますのでご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

同窓会 改訂した会則の「会員名簿の管理と利用に関する規約」に基づいて…

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。
なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※ 個人情報の非開示や削除をご希望の方は、各系役員または同窓会事務局までご連絡下さい。

同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

【学生活動への援助報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

アカペラサークル

電気・電子工学課程 4年 山崎 和樹

顧問教員：国際交流センター 准教授 吉村 弓子

部員数：59名（学部47名、大学院12名）

この度はアカペラサークルJ.U.S.T.にご支援していただき、誠にありがとうございます。現在アカペラサークルは、毎週月曜日と金曜日の放課後にミーティングと発声練習等を行っております。また、サークル員の中で4から6人でバンドを組み、バンドごとに都合のよい曜日に練習を行っております。

私達は4月に新入生歓迎ライブ、4月と9月に愛知大学との合同ライブ、10月の技科大祭、12月のウインターライブ等を主催・運営しています。また、他大学の主催するライブにも積極的に参加し、他大学との交流を深めています。

この度頂いた援助金は、ライブを行う上で必要なミキサーとスピーカーに使わせていただきました。これによりスピーカーのノイズが無くなり音質が改善され、ミキサーの性能向上により音響づくりがしやすくなりました。そのためより良い環境で演奏を行うことができるようになりました。

今年度の技科大祭ではプロのアカペラグループPermanentFishや、多くの他大学のアカペラサークルをゲストとして招くことが出来ました。

今後は現在愛知大学と合同で行っている主催ライブを東海地方の多くの皆様に知っていただき、アカペラという音楽の楽しさを伝えていければと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



写真1：2014年6月
本校にて行われた新入生ライブの集合写真です

おちゃのかい

環境・生命工学課程 2年 成瀬 敦司

顧問教員：環境・生命工学系 教授 平石 明

部員数：22名（学部16名、大学院6名）

この度は私共おちゃのかいにご援助していただき有難うございます。おちゃのかいでは毎週火曜日と金曜日に裏千家茶道の先生2人にお越しいたご稽古を行っています。先生方は毎回のようにその豊富な人生経験から茶道のことだけに限らず様々なことを話して下さいます。抹茶を飲みながら先生方とお話するのが楽しくて参加している部員も少なくありません。また先生方は茶道を通じてお手前だけではなくおもてなしや礼儀を学んで欲しいと仰います。部員一人ひとりがその意味を考えながら日々稽古をしています。

おちゃのかいでは毎年技科大祭にて技科大庵と称して和菓子と抹茶をお出ししています。今年も多くの方が来ていただきました。技科大庵は椅子に座って飲む形式なのでどなたでも入りやすく多く方にご好評いただいています。また技科大庵は新入生のお手前デビューの場でもあります。今年も新入生たちが緊張しながらも立派なお手前を披露していました。私自身は2回目の技科大庵でのお手前でした。お手前の手順は頭に入っているのですが、その分お客様の表情に意識を向けられるようになり去年とは別の緊張感を味わいました。

茶道を始めてから私は集中力が増したと自分で感じるようになりました。まだたったの1年半しか経っていませんが、自身の変化を感じることができより茶道にのめり込んでいっています。

これからさらに個人としてまた集団としても成長していけるようにより稽古に励んでいきたいです。



コンピュータクラブ

電気・電子情報工学課程 4年 坂口 雄輝

顧問教員：情報・知能工学系 教授 梅村 恭司

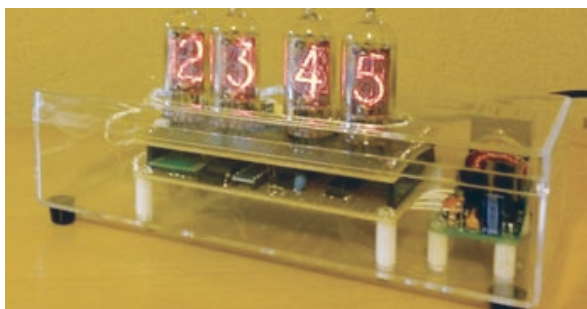
部員数：56名（学部49名、大学院7名）

深秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたびはコンピュータクラブの活動にご支援賜りました部員一同、心より感謝申し上げます。ご支援頂きましたオシロスコープ、卓上ボール盤、FPGA 実習ボードの三点は主に電子回路班で活用させて頂いております。電子回路班は年々登録人数が増加し、今年度の登録人数は13名にも上り、コンピュータクラブでも活気ある班の一つとなっています。忙しい授業の合間を縫って日々ハードウェア・ソフトウェアの製作に熱意を注いでいます。

最近の展示内容もニキシー管を用いたクラシックな時計から、タッチパネル付き TFT 液晶を用いたグラフィカルなマイコンボードまで多様さを増してきました。時計は GPS を内蔵することで時刻補正が行え、液晶ボードはタッチパネルを活かしたスマートフォンライクな GUI を再現するなど独自の工夫を盛り込んだ作品となっています。視覚的に楽しめる作品は文化祭で展示を行う際にも好評を頂いております。これらの嬉しい声を掛けていただけるのも、ひとえに皆様の暖かいご支援のお蔭と心より御礼申し上げます。今後ともより高度な、そして楽しい作品を披露できるよう活動に励んでまいります。

末筆ながら皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



部員が製作したニキシー管時計



オシロスコープでの波形確認

ジャグリングサークル

情報・知能工学課程 3年 加藤 凱生

顧問教員：国際交流センター 准教授 村松 由起子

部員数：35名（学部28名、大学院7名）

この度は、ジャグリングサークル「じゃぐだらりん」（以下：じゃぐだらりん）に活性化経費を給付していただき誠にありがとうございます。

じゃぐだらりんは結成して間もないこともあり、ジャグリングのための道具が不足しておりましたが、活性化経費により充実を図ることができました。様々な道具による演技の披露やジャグリングの体験会を開催することにより、多くの方にジャグリングの楽しさを知っていただけたと思います。大人の方だけではなく、子供たちにも楽しんでもらう事ができ、嬉しく思っています。

また、今年度、学内での国際交流行事やパーティー、椙山女学園の学園祭、地域の学童保育などでパフォーマンスを致しましたが、これらのイベントでの演技は、今回の活性化経費によって購入したスピーカーを用いたことにより成功を収めました。パフォーマーとして観客の方々の前で演技をする機会が増えたことにより、それに向けての練習を通して技術を向上することができ、舞台に立つことの楽しさを知ることが出来ました。

今後も様々な場での演技を通して地域交流や国際交流を行い、より多くの人とジャグリングの楽しさを共有したいと考えています。

今回は活性化経費を給付していただき誠にありがとうございました。



トライアスロン部

機械工学課程 3年 平塚 翔太

顧問教員：国際協力センター（電気・電子情報工学系兼務）

教授 穂積 直裕

部員数：学部30名、大学院17名

この度は私たちトライアスロン部へご支援いただき、ありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。

2014年度は15人の新入生が入部し、総勢47名の大部隊となったトライアスロン部ですが、火曜日のラン練、金曜日のスイム練、土曜日のバイク練を通して、心身ともに鍛錬しております。今年度は沼津千本浜トライアスロンに3名、トライアスロン伊良湖大会に9名、サンライズイワタ in 竜洋トライアスロン大会に1名の部員が出場し、全員が完走することが出来ました。その他にも掛川・新茶マラソンやシマノ鈴鹿ロードレースに出場した部員が好成績をおさめるなど、トライアスロン以外の様々な大会にも挑戦しています。

今回の課外活動活性化経費は、自転車のホイールの購入に充てさせていただきました。競技用自転車においてホイールのグレードアップの効果は大きく、使用した部員のシマノ鈴鹿ロードレースでの入賞、またトライアスロン初出場の2名の部員の完走に大きく貢献しました。トライアスロンは機材スポーツとしての側面があるため、競技者の金銭的負担は大きいです。今回ご支援いただいた物品のおかげで、未来の後輩たちも含めて、その負担を軽減することができます。

これからも日々精進して参りますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



バスケットボール部

建築・都市システム学課程 4年 小笠原 聡志

顧問教員：総合教育院 准教授 佐久間 邦弘

部員数：34名（学部26名、大学院8名）

この度は、我々バスケットボール部へ御支援をいただき、ありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。バスケットボール部は、現在部員約25名で活動しております。皆様のご支援により、バスケットボールとけが予防のためのテーピングテープ、部活で利用するトレーニングボールを購入させていただき、不自由な充実した練習を送らせていただいております。今年の東国体は、悔しくも8位という結果に終わってしまいましたが、得られたものはそれ以上に大きく、日々技術・精神力を鍛え、汗を流しています。

今年度の練習のキーワードは「話し合いと協力」です。今年度は今回の東国体で最後という選手が多く、昨年度よりも部員全員での話し合いを多く行いました。意見の対立やうまく自分の意思が伝わらないこともありました。しかし、話し合うことで互いの考え、動きなどを共有でき、今まで以上の団結力となりました。バスケットボールは個々の能力だけでは勝つことのできない競技です。今後も互いの足りないところを補い、協力できるような部活にしていきたいです。

バスケットボール部は、これまでも卒業された先輩方より「バスケの技術」のみならず、「人間としての力」を育てていただきました。このよき伝統は今も自然と残り、部員に浸透しています。これからも、このよき伝統を守り、バスケットボールを通じて様々なことを学んでいきたいと考えています。これからも、我々の活動を温かく見守っていただけることを、部員一同心より願っております。



バドミントン部

電気・電子情報工学課程 4年 佐藤 健人

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数：45名（学部39名、大学院6名）

私たちバドミントン部は大会で勝つために日々練習を頑張っています。昨年の東海地区国立大学体育大会 準優勝（団体）は豊橋技術科学大学バドミントン部創部から初の快挙でした。今年の東国体はチーム全体が上手くかみ合わず、昨年ほどいい成績を残すことができませんでした。昨年よりいい結果を残すのは簡単ではないですが、個々の実力の向上と新戦力が加わったので、今後は東海地区国立大学体育大会 優勝、豊橋リーグ 1部 優勝は不可能ではないと思っています。これからも、上を目指す食欲さを忘れず、仲良く和気藹々と活動していきます。

バドミントン部の大会成績

2012年6月 新人戦優勝（個人ダブルス）

2013年6月 東三河バドミントン選手権 3位（個人ダブルス）

7月 東海地区国立大学体育大会 準優勝（団体）

8月 豊橋市民スポーツ祭 S級 優勝（個人ダブルス）

9月 秋季豊橋リーグ 2部 優勝（団体）

2014年3月 春季豊橋リーグ 1部 4位（団体）

6月 東海地区国立大学体育大会 5位（団体）

7月 東三河バドミントン選手権 準優勝（個人ダブルス）

8月 豊橋市民スポーツ祭 S級 優勝（個人ダブルス）



ボランティア部

情報・知能工学課程 3年 村上 翔麻

顧問教員：総合教育院 教授 加藤 三保子

部員数：66名（学部61名、大学院5名）

2014年8月14日（木）から8月17日（日）の4日間にかけて表浜 BLUE WALK2014は開催された。

表浜 BLUE WALKとは、静岡県と愛知県の伊良湖岬まで続く表浜海岸を清掃する活動である。本学の学生（ボランティア部：学部生61名、大学院生4名）や愛知県内の大学生を中心に運営しており、今年度は約20kmを4日間かけて清掃した。参加人数は延べ350人、回収したごみは1tonにも及ぶ。

1日の流れとして、朝から夕方まで海岸で清掃を行う。夜は海岸付近の施設を借りて、環境問題やごみ問題についてのワークショップを実施した。ワークショップを通して、海岸清掃を行うだけでは分からない環境問題の側面を知ること、参加した学生の環境に対する意識を高めた。

8月14日（木）の初日は豊橋技術科学大学にて開会式を行った。あいにくの雨であったが、午前中は海岸清掃を行わず宿でワークショップを実施し、午後から海岸清掃を行った。

8月17日（日）の最終日は、田原パシフィックロータリークラブさんと赤羽根学園の生徒の方と共に、今までにない大規模な人数での海岸清掃を行った。その規模は、BLUE WALKの参加者を含め、総勢140人となった。子供から大人まで幅広い年齢の方と歩き、ごみを拾いながら多くの人と交流することが出来た。その後、伊良湖岬の灯台にてゴールを迎えた。



モータースポーツクラブ

機械工学専攻 1年 荒木 悠志

顧問教員：機械工学系 教授 飯田 明由

部員数：13名 (学部5名、大学院8名)

この度は私たちモータースポーツクラブへご支援をいただき、ありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

今年度はヘルメット、プロテクターとカートスーツを支援していただきました。どれもレース中の万が一の事故から身を守るための保護具として使用させていただきました。具体的には、ヘルメットは頭部の保護、プロテクターは上半身の保護、そしてカートスーツは衝撃吸収と火災からの保護を目的として、活用させていただきました。

私たちモータースポーツクラブは、モータースポーツの登竜門と言われるカートに着目し、運転技術向上を目指して日々活動を行っております。今年は部員の7割が新入部員ということで、ひとりひとりの基礎力向上をねらいにして活動しており、その一環として、幸田レンタルカート耐久レース第5戦へ参加しました。幸田レンタルカート耐久レースは、2人～6人のチームで3時間、1台の車を交代で運転し、その周回数を競うものです。今回は新入生の育成も兼ねて、上級生チームと新入生チームの2チームで参加し、無事に完走することができました。部員の実力が確実に向上していることを確認できた一方で、トップチームにはまだまだ及ばないことを実感致しました。

今後はひとりひとりの能力向上だけでなくチームとしての能力向上も念頭に置き、さらなるトレーニングに励みたいと考えております。今後ともよろしく願い申し上げます。



ラグビー部

環境・生命工学課程 4年 山本 萌恵

顧問教員：電気・電子情報工学系 准教授 稲田 亮史

部員数：30名 (学部20名、大学院10名)

この度は課外活動活性化経費にて、我々ラグビー部を支援して頂き誠にありがとうございました。ラグビー部部員一同、心よりお礼を申し上げます。援助金は、ハンドダミー、スクイズボトルゲージ、タックルバッグ、ラグビーボール、キックティーの購入に使用させていただきました。ハンドダミーやタックルバッグは練習時に、ボトルゲージは練習時、試合時の選手への水の補給に使用させて頂いています。また、ラグビーの試合では各チームで1球ずつ新球を出さなければならないため、今回のラグビーボールの援助は非常に助かりました。現在ラグビー部は、学部20名、大学院10名の合計30名が所属しており、選手26名、マネージャー4名で活動しています。毎週火、木曜日の放課後、土曜日の午前中にグラウンドで練習しており、時には他大学や社会人のチームと練習試合や合同練習を行っています。また、私たちラグビー部は東海学生連盟に加盟しており、秋季に開催される東海学生ラグビーリーグに出場しています。昨年度のリーグ戦では、8チーム中7位という不本意な結果に終わってしまい、悔いの残る試合となりました。この文章を書いている現在もリーグ戦の真ただ中で、所属しているBリーグで優勝し、Aリーグへの昇格を目指して部員が一丸となって練習に励んでいます。これからも先輩方への感謝の気持ちを忘れず、精進してまいります。今後ともご支援とご声援のほどよろしくお願い致します。



ロボコン同好会

機械工学課程 3年 山上 紘世
顧問教員：機械工学系 教授 鈴木 新一
部員数：44名 (学部31名、大学院13名)

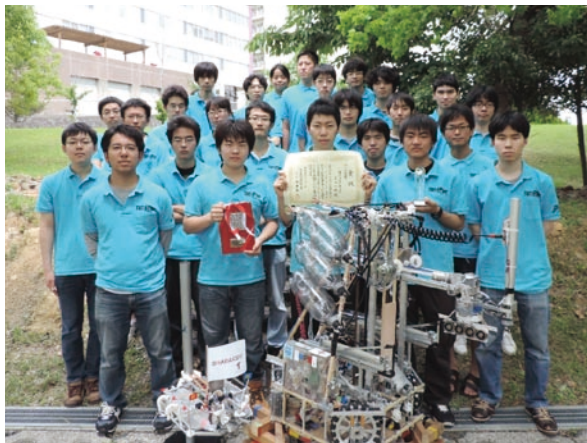
この度は我々ロボコン同好会に課外活動活性化経費のご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

ロボコン同好会は「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」出場と優勝を目指して活動しています。今年は国内大会「NHK 大学ロボコン 2014」で惜しくも優勝は逃しましたが、ベスト4という成績を残しアイデア賞と特別賞を受賞しました。来年こそは、NHK、更には ABU での優勝を目指します。

現在、来年度の「NHK 大学ロボコン 2015」の出場資格を獲得するため、学部生 32 名、大学院生 12 名、の計 44 名で活動しています。活動は NHK ロボコンだけでなく、大学間の技術交流等にも力を注いでおり、東京大学を始めとした他大学の学生との交流会を開いています。また、8月31日には「東海地区交流ロボコン」にも参加しました。さらに、地域との交流の一環として、子供たちがロボットを身近に体験することを目的として地域イベントにも積極的に参加しています。

今年度は、頂いた経費を画像処理用の高速度カメラと処理用 PC、3D プリンタとロータリバンドソーに充てさせていただきました。これにより、ロボットの設計の幅を広げ、製作の効率化を図ることができます。

来年度の大会は、ロボット同士のバトミントンという競技内容になっており、センシング技術の向上と、マシンの完成度が勝敗を左右すると予想されます。ご支援頂いたことを生かせるよう、部員一同精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



弓道部

建築・都市システム学課程 3年 久保田 剛司
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
部員数：44名 (学部35名、大学院9名)

この度は、私たち弓道部に課外活動活性化経費の援助をしていただき、誠にありがとうございます。援助金は、弓の購入と道場代に充てさせていただきました。おかげで、毎年のごとく、多くの新入部員が入部し、密度の濃い練習を送る日々を過ごしています。部員を代表してお礼申し上げます。

今年度で弓道部は創部から7年目を迎えました。7年という歳月は創部当初の目的を忘れさせるには十分で、かくいう私も部長という役職についてからは部員共々、「楽しく弓道をしよう」という目的とともに、「弓道をやった証を残そう」と目標を掲げました。そのかいあってか、部員たちの意欲的に弓道に取り組んでくれました。

その結果として、多くの成績を残すことができました。大会では、年に数回行われる東三河弓道大会での入賞多数、名古屋で行われる大会での入賞、市民大会での優勝、京都の全国大会での決勝進出など盛んに大会に出場し、結果を残しました。恒例の合宿では、弓道協会の教士の先生に指導を頂けるまで繋がりをつくり、また長岡技科大の弓道部交流するまでに至りました。個人の成果では、四段3人を含む、昇段・昇級が9人にもなりました。

現在、弓道部では澤田和明先生に顧問をしていただき、野依神社の弓道場を借りて練習しています。学内に安土を建設していただきましたが、道場がないため部活動を行うためには十分とは言えません。弓道場が完成すれば、さらなる成果が残せると考えております。



軽音楽部

機械工学課程 4年 正村 孝太

顧問教員：環境・生命工学系 講師 東海林 孝幸

部員数：107名（学部66名、大学院41名）

この度は軽音楽部にご支援賜り、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

軽音楽部は、主な活動として学内のコモンズにて定期的にライブを開催しております。そのために部員は日々部室で練習に励んでいます。なお、ライブの際にはPAやローディー、照明といった班を分かれて設営を行い、部員全員でのライブ運営心がけています。また、他大学のサークルとの共同ライブや、年に一回、豊橋のライブハウスを貸し切って行うライブイベントを開催するなど、学外へ向けての活動も活発となっています。

本サークルの部員数は毎年100名を超えることも珍しくなく、部員の増加に伴い、活気あふれる一方、機材の消耗も早くなってきております。それを受け、今回、課外活動活性化経費にて、ベースアンプヘッドを購入させて頂きました。ベースアンプヘッドはベースギターにて音を出す際に必要な機材であり、部室における練習、定期ライブを行う上で欠かせないものです。今回申請させて頂いた新しいベースアンプによって部員が一層充実した練習に取り組むことができるようになりました。また、ベースアンプを使用するにあたって部員同士で講習会を開催し、より長期に渡って使用していくためのディスカッションを行いました。一人ひとりが演奏を楽しむのももちろんのこと機材の正しい運用など、部員全員での運営や活動を心掛け、より良いサークルへ成長していきたいと考えています。



建築サークルTYACC

建築・都市システム学課程 B4 高橋 結加、清水 優里

顧問教員：建築・都市システム学系 教授 松島 史朗

部員数：23名（学部21名、大学院2名）

8月23日のオープンキャンパスと同時開催した技科展では各学年の建築学生の設計演習の優秀作品の展示を行いました。入学を考える高校生の参考になり、またOBやOGの方との交流も出来たのでとても有意義なものになりました。さらに建築サークルの活動の紹介も同時に展示し、興味をもってくださった方がいる活動の見学に来ていただきました。また、小学生向けの段ボールでのワークショップを行い、ものづくりを通じた学生と地域住民の方と交流が出来て良かったです。様々な方々と自分たちの作品などを通して交流出来たので来年にもつなげたいと思いました。

10月11・12日の学祭で行ったモノプロはピアノ線によるインスタレーションを製作し、レストスペースを作りました。企画の提案から材料準備、製作、設置など全て学生で考え、試行錯誤したことで「ものづくり」の楽しさや難しさを体感することが出来ました。製作に関わった学生については、頭で考えるばかりでなく実際に作ってみる・試してみることが身に付いたと思います。このように試行錯誤を繰り返してより良い物をつくるという経験は、将来ものづくりに関わる学生にとって良い影響をもたらすのであります。

これらの活動は課外活動活性化経費のおかげで実施することが出来ました。建築学生の作品展（技科展）とインスタレーション製作の展示企画（モノプロ）を実施することが出来ました。ありがとうございました。



国際交流クラブ

環境生命工学課程 4年 柿本 恭宏

顧問教員: 国際交流センター 准教授 桂田 浩一

部員数: 102名 (学部88名、大学院14名)

昨年度は課外活動活性化経費を利用してバスをチャーターし、留学生と企業見学に行きました。留学生対象企業見学は毎年行なっているもので、8回目の開催となりました。留学生に日本の企業のことを知ってもらうことと、企業見学を通じて留学生と交流をすることを目的としています。昨年度は計16人(うち留学生9人)で、豊橋市の花王株式会社豊橋工場と、静岡県浜松市の Honda 浜松製作所に見学に行きました。

花王豊橋工場ではスキンケア用品の製造行程の説明とラインの見学をしました。プレゼンテーション及び、口頭での説明は日本語でしたが、日本人学生が(日本語を話せる留学生の助けを借りながら)通訳しました。

静岡県浜松市の Honda 浜松製作所では、会社概要の説明、海外での取り組みを聞いた後、自動車部品の加工、組立工程、環境施設の見学をしました。留学生の母国でよく乗られている自動車の紹介もあり、質疑応答の時間はとても有意義でした。

ご支援のおかげで大型バスを利用でき、非常に充実した見学旅行にすることができました。今年度も課外活動活性化経費に採択されましたので、留学生にさらに楽しんでもらえる企業見学にしたいと思います。



花王株式会社豊橋工場



Honda 浜松製作所

自動車研究部

機械工学課程 4年 待木 諒

顧問教員: 機械工学系 教授 柳田 秀記

副顧問教員: 機械工学系 准教授 安井 利明

副顧問教員: 機械工学系 助教 光石 暁彦

部員数: 33名 (学部25名、大学院8名)

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動を行っております。全日本学生フォーミュラ大会は、学生が企画・設計・製作したレーシングカーについて、車の走行性能だけでなく、コストや販売戦略も審査される、ものづくりの総合力が評価される大会です。授業では学ぶことのできない経験をすることで、自動車技術並びに産業の発展・振興に資する人材を育成するという趣旨があります。

今年開催された第12回大会では、88チーム中総合4位という幣部が大会に参戦して以来、過去最高の成績を獲得することができました。また、耐久走行賞3位、デザイン賞3位と国土交通大臣賞も獲得することができました。

このような結果を収めることができたのは、皆様のご支援のおかげです。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。

今年度はヘルメット、グローブ及びインターカムをご支援いただきました。ヘルメットとグローブはドライバーが安全の為に着用しなければならない装備の一部であり、車輻を運転する際に使用しました。インターカムはヘルメットに取付けることにより、ドライバーとリアルタイムで会話ができます。これにより走行中のフラッグ見落としを防ぐことができるようになりました。

さらなる飛躍を目標に、皆様からのご支援に感謝し、たゆまぬ努力を続けて活動していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



豊橋日曜学校

電気電子情報工学課程 4年 山本 恭平

顧問教員：建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸

部員数：25名（学部12名、大学院13名）

この度は、私たち豊橋日曜学校にご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住の知的障害を持つ子どもたちとふれあうことを目的としたボランティア団体です。各月ごとにテーマを決め、様々なレクリエーションや工作、キャンプや運動会などを企画して、子どもたちに普段の生活ではできないようなことを体験してもらうこと、子どもたちにいつも笑顔でいてもらうことを目標に活動しています。

豊橋日曜学校は2013年で40周年の節目を迎え、本年度が41年目の活動となります。今年は4～6月の日曜学校の学生向け体験期間を経て、新たに12人の学生が参加してくれました。活動は愛知大学、創造大学、岡崎女子短期大学と合同で行っています。すでに新入学生の企画したレクリエーションも行っており、9月にはお月見団子を作り、10月には運動会を行いました。今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、このような毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



模型部

情報・知能工学課程 4年 柚木山 駿

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数：25名（学部22名、大学院3名）

この度は模型部の活動に対してご援助いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。本模型部は設立から今年で5年目を迎えました。本年度も新入生に恵まれ、学部21名、大学院4名の計25名の部員で毎週2回の活動を行っております。今年も例年通り新入生歓迎会や技科大祭での展示に部内コンペなどの活動に加えて、ワンダーフェスティバルという外部のイベント等にも参加し、活発に活動しています。

今回のご援助により購入したプラモデルは、毎年技科大祭で開催している小学生以下の子供たち向けのプラモデル製作体験会に使用させていただきました。それらは全て子供たちに作ってもらうことができ、大盛況でした。また、ただ制作したものを渡すだけでなく、参加した子供と作ったプラモデルの記念写真を取り、その場で印刷したものを渡すという企画も好評でした。参加していただいた親子ともに楽しんでいただき、多少なりとも「ものづくりの楽しさ」を伝えることが出来たと思います。

5年目になりましたがそれでも他サークルに比べるとまだまだ生まれたてのようなサークルです。手探りの部分も多いですが部員の協力などもあって、大きな問題もなくのびのびと活動できています。これからも模型を通して「ものづくりの楽しさ」を伝えていければと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



理科部

電気・電子情報工学課程 3年 西目 匠

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 上原 秀幸

部員数：20名（学部20名、大学院0名）

私たち理科部は、技術工作が好きな学生やこれから趣味で始めようと考えてはいるものの右も左もわからない学生が集まって今年度結成されました。技術や情報の共有といった学生間の交流を活発にすること、内外に技術科学への興味関心を広めていくこと、そして創作活動を行う上で必要な工場などの大学の施設・設備を容易に利用できるようになることを目的としています。

理科部の活動内容は、特定のジャンル、即ち電気、機械、情報や化学といった分野に制限していません。自らの知的好奇心や探究心の赴くままに創作活動ができる場として理科部が在る、そのような活動ができればと考えております。

とは言え、創作活動には道具から部品に至るまで出費がかさむものです。今回申請しました工具セットは、スタート時点で足踏みをしてしまわぬように、工具を持っていないメンバーへの貸与やイベントで工作体験などを行う際の備品として活用しました。

本年度のオープンキャンパスおよび技科大祭では、これまでの豊橋技科大にはおそらくなかったであろう、技術への探求と実現に特化したサークルとして、テスラコイルや蓄圧式空気砲、人工イクラといった製作物の展示および体験を行い、来場された多くの方々に驚きと感動を与えることができたという手応えを得ております。ゆくゆくは地域のイベントなどに出展し、活動の範囲を広げていく所存であります。



陸上競技部

機械工学課程 4年 三木 規睦

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 若原 昭浩

部員数：19名（学部12名、大学院7名）

昨年に引き続き、今年も課外活動活性化経費によるご支援いただき誠にありがとうございます。陸上競技部一同、心よりお礼申し上げます。今年度は、新入部員の専門種目の練習に必要であった3000m障害の練習用ハードルと、部員部員数の増加に伴い数が足りなくなっていたストレッチマットを新たに購入していただきました。誠にありがとうございます。部員一同、大切に使用させていただきます。

我々陸上競技部は、現在マネージャーを含め部員19名で活動しており、毎週月曜日と木曜日の夕方、土曜日の午前中に練習に励んでおります。またそのほかでも時間があれば個人で練習を行っています。今年度の東海地区学生陸上競技対抗選手権大会では、個人種目で三名が入賞することが出来ましたが、前年度に比べ入賞者が少なく悔しい結果になってしまいました。来年度は今回の事を踏まえ、より良い成績を残せるよう、より一層練習に励んでいきたいと思っております。

これから長距離部門以外はシーズンオフに入ります。来年度の大会に向けて厳しい寒さとの戦いですが、各自が自己記録の更新を狙って努力していく所存であります。これからも熱い声援をよろしくお願い致します。



【同窓生への支援事業報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

■ 大串達夫先生退職記念パーティー ■

開催概要

実施日：平成26年5月17日
会場：ホテルアソシア豊橋
出席者 31名



【申請者からのコメント】

1988年度修了 佐藤裕久

平成25年度に退職された大串達夫教授は旧物質工学系に所属しておりましたが、学内再編の際に総合教育院に異動されておりました。そのため学内での退職記念パーティーは総合教育院でのみ執り行われ、最終講義は先生ご自身のご希望により開催されませんでした。

このような状況のため、OB・OGを集めて退職記念パーティーを5月17日に開催いたしました。パーティーでは大串先生の長年の労をねぎらい、お世話になった感謝の気持ちを各々伝え、また先生には簡単に最終講義もして頂きました。

■ 大串達夫先生退職記念パーティー ■

開催概要

実施日：平成26年6月7日～8日
会場：熱海ニューフジヤホテル
出席者 41名

【申請者からのコメント】

1999年度修了 山本一公

中川聖一先生の退職記念行事として、3月に学内者向けに最終講義およびパーティ、学外者（研究者）向けに音声ドキュメント処理ワークショップとの併催で講演会およびパーティが行われていましたが、この度研究室OB向けの講演会と祝賀会を、中川先生のご希望により熱海温泉にて行いました。

中川先生はもちろんのこと、研究室に関係の深い先生方にもご講演いただきました。また、温泉での宿泊ということで、夜遅くまで懐かしい話に花が咲き、大変盛況な会となりました。また、退職記念ということで、中川先生ご夫妻に記念品をお渡しいたしました。

研究室40周年を実施しようという話も出ましたので、その際は研究室OBの皆様のご参加をお待ちしています。



2014年豊橋技術科学大学海岸工学研究室OB会

開催概要

実施日：平成26年9月20日
会場：こすたりかシティガーデン
出席者 41名

【申請者からのコメント】

2002年度修了 岡辺 拓巳

建築・都市システム学系（旧建設工学系）海岸工学研究室では毎年夏に同窓会を開催しています。スタートからおよそ10年が経ちますが、毎年15名程の卒修了生に参加いただき、交流活動が続いています。今年は9月20日（土）にこすたりかシティガーデンにて開催しました。青木伸一先生（現大阪大学教授）が本学名誉教授の称号を授与されたお祝い会も兼ねており、例年よりはるかに多い41名（同窓生29名）のOB・OGの方々にご参加いただきました。遠方から駆けつけていただいたOB・OGの方も多く、久しぶりに再開する旧友との歓談にあちこちで花が咲き、あつという間の2時間となりました。次回は平成27年夏～秋に開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。



第一回大門研究室OB・OG会

開催概要

実施日：平成26年10月18日
会場：えんかい屋 居酒屋 どんべえ
出席者 21名

【申請者からのコメント】

2002年度修了 岡辺 拓巳

大門研究室が開設された2008年から6年が経ち、これまで17名のOBOGが卒業・修了していきました。人と人の絆を大切に、OBOGと現スタッフ・学生との交流の機会を今年度より開催することとなり、第一回大門研究室OBOG会を開催致しました。

先輩方からは現学生へ励ましのお言葉を頂き、またサプライズ誕生日イベントおよび結婚祝賀会を催すなど、充実した時間を過ごすことができました。

今後は、1年毎の開催を予定しております。本会の連絡は、メールの送信や大門研究室ホームページへの掲載、暑中見舞いの送付を通して、ご連絡させて頂いておりますので、知人への周知や住所変更の連絡などにご協力をお願いいたします。



■ 雲雀会 (同窓会) ■

開催概要

実施日：平成26年11月21日
会場：名鉄トヨタホテル
出席者 25名

【申請者からのコメント】

2006年度修了 斉藤翔一

トヨタ自動車に在籍する豊橋技術科学大学卒業生が集まり、同窓会（雲雀会）を開催しました。雲雀会も今回で第5回目の開催となりました。1982年卒業の大先輩から今年入社した新人まで幅広い年次の方に参加いただきました。会員総数も91名となり、今後さらに盛り上がっていくことと思います。

次回第6回は来年5月の開催を計画しており、より多くの方に参加していただけることを期待しております。



■ 神野先生を囲む会 ■

開催概要

実施日：平成26年7月5日
会場：日本料理 うまいもんや 鯛松
出席者 19名

【申請者からのコメント】

1994年度修了 大門裕之

今年の3月末、神野先生が豊橋技術科学大学 理事・副学長を無事にご退任され、神野先生を囲む会を7月5日に開催いたしました。

多くの方に遠いところからお集まりいただき、皆様のお陰でとても楽しい時間を過ごせました。これもひとえに神野先生と同窓生の皆さんのお人柄によるものだと思います。神野先生からも、とても楽しいひと時を過ごせて感謝している、とお言葉を頂きました。機会がありましたら、是非また集まって旧交を温めさせていただけると嬉しいです。

今後も多数の皆様のご参会をお願いするために、音信不通の方々への案内方法も検討しますので、お知り合いの関係者へこのメールを転送していただくなど、ご協力よろしくお願いたします。



(株)ブライダルは
豊橋技術科学大学同窓会の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

37年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に豊橋技術科学大学同窓会の皆様には平成17年より「豊橋技術科学大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この広告を見たとおっしゃってくだされば、会員の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

豊橋技術科学大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>

<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



37年の実績

株式会社 **ブライダル**

Network / 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-7-13 コスモ栄ビル9F
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
大阪支社 〒530-0001 大阪府北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F